ジーニアス英和辞典 第3版
ジーニアス和英辞典
ロングマン現代アメリカ英語辞典
英語類語辞典

ユーザーズガイド

ご注意

(1) 本マニュアルの著作権およびソフトウェアに関する権利は全てカシオ計算機株式会社に帰属します。
(2) 本マニュアルの内容に関しましては、将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本マニュアルの内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたらご連絡ください。
(4) 運用した結果の影響については、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
(5) 本マニュアルは、本機(CASSIOPEIA l'agenda)の基本的な操作(ボタン操作や画面上の操作など)をマスターされていることを前提に制作しております。本機の基本操作については、付属の取扱説明書を参照してください。
(6) 本書中に含まれている画面表示は、実際の画面とは若干異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

Microsoft®、Windows®、Windows NT®は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
各会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

© Copyright 2002 CASIO COMPUTER CO.,LTD. All rights reserved.

本書はお読みになった後も大切に保管してください。

出典について

●英和、和英辞典

収録してあります辞典の内容は、小西友七・南出康世編集主幹『ジーニアス英和辞典 第3版』および小西友七編集主幹『ジーニアス和英辞典』に基づき、大修館書店のご協力を得て編集したものです。

『ジーニアス英和辞典 第3版』は小西友七氏・南出康世氏と大修館書店の著作物です。『ジーニアス和英辞典』は小西友七氏と大修館書店の著作物です。

本ソフトウェアに収録した内容および本書の一部または全部を無断で転載・複写することは著作権法で禁止されています。

また、個人としてご利用になるほかは、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。

※図版・一部の表などを除き、書籍版(大修館書店刊)のほぼ全内容を収録しています。ただし、画面表示の都合および社会情勢の変化その他の事情により、大修館書店の監修に基づいて、書籍版の内容を改変した部分があります。

●英英辞典

収録してあります辞典の内容は、Pearson Education社発行の書籍版『Longman Advanced American Dictionary(ロングマン現代アメリカ英語辞典)』のほぼ全内容を収録しています。

『Longman Advanced American Dictionary(ロングマン現代アメリカ英語辞典)』はPearson Education社の著作物であり、本ソフトウェアに収録した内容および本書の一部または全部を無断で転載・複写することは著作権法で禁止されています。

また、個人としてご利用になるほかは、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。

※図版・一部の表などを除き、書籍版(Pearson Education社刊)のほぼ全内容を収録しています。ただし、画面表示の都合および社会情勢の変化その他の事情により、Pearson Education社の監修に基づいて、書籍版の内容を改変した部分があります。

Longman Advanced American Dictionary
© Pearson Education Limited 2000

●英語類語辞典

収録してあります辞典の内容は、小西友七編集主幹『ジーニアス和英辞典』に基づき、大修館書店のご協力を得て当社が独自に編集したものです。

この辞典は、『ジーニアス和英辞典』(大修館書店刊)に基づく当社の著作物であり、本ソフトウェアに収録した内容および本書の一部または全部を無断で転載・複写することは著作権法で禁止されています。

また、個人としてご利用になるほかは、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。

※大修館書店監修『英語類語辞典』は電子版の辞典であり、書籍版は刊行されておりません。

目次

出典について 2
■ 概要と基本操作 5
主な特長 5
辞典を起動するには 6
辞典の画面遷移について 7
■ 辞典を引くには 8
基本的な検索操作 8
辞典の各画面での移動について 10
英和辞典の【データ画面】について 11
■ 英和辞典の成句検索を利用するには 12
■ 英英辞典の成句検索／例文検索を利用するには 13
成句を検索するには 13
例文を検索するには 14
■ さまざまな検索のしかた 15
ヒストリー検索を利用するには 15
ワイルドカード検索を利用するには(英和／英英辞典のみ) 15
マーク機能を利用するには 16
■ ラインマーカーを利用するには 18
ラインマーカーを引くには 18
ラインマーカーを消すには 18
■ 他のプログラムの利用中に辞典を引くには 19
調べたい語を入力して辞典を引くには 19
画面上に表示されている単語を選んで辞典を引くには 20
検索語ダイアログの編集メニューについて 20
検索設定について 20
辞典ウィンドウの操作について 21
■ 英和辞典について 22
I 見出し語 22
II 発音 24
III 本義(中核的意味)・原義(語源的意味) 25
IV 品詞 26
V 語形変化 26
VI 語義・文型表示・語法・用例 28
VII C と U 36
VIII 成句・句動詞 37

発音記号表 38
専門分野略語表 42
■ 和英辞典について 43
I この辞典のしくみ 43
II 英語中見出し 44
III 英語用例・成句 44
IV 複合語・慣用表現 44
V 英語中見出しでの記述 44
VI いろいろな注記・記号 48
■ 英英辞典について 49
I 表記早見表 49
II 略語・頻度表示･ラベル 49
III 文法記号 51
IV 探している単語を見つける方法 52
V 語義の理解 54
VI 頻度 57
VII 文法 58
VIII 使用域と語法に関する情報 64
IX 発音 65
■ 英語類語辞典について 70
記述の構成要素 70

■ 概要と基本操作

このCFカードには、大修館書店の「ジーニアス英和辞典 第3版」(約95,000 語)、「ジーニアス和英辞典」(約80,000 語)、「英語類語辞典」(約21,000 語)、「ロングマン現代アメリカ英語辞典」(約84,000 語)の4種類が含まれています。電子辞典ならではの、さまざまな検索方法や機能をご利用いただくことができます。

主な特長

・見やすいデータ表示

見出しのボールド表示やカラー表示で、見やすいデータ表示となっています。また、データ表示の文字サイズを拡大・標準・縮小の 3 サイズから選ぶことができます。

・多彩な情報を収録

英和・和英・英英・類語の4つの辞典を収録することにより、一つの語／語句から縦横に意味や類義語、用法などを調べていくことが可能となっています。英和辞典では訳語だけでなく、訳語から派生する「用例」や「解説」、「成句・複合語」を、それぞれ表示することができます。また英英辞典には、多数の成句・例文も収録されています。

・多彩な検索方法に対応

調べたい語を入力して検索するだけでなく、検索する語があいまいな場合の「ワイルドカード検索」、最近調べた語を再度検索する「ヒストリー検索」、検索結果のデータ表示をドラッグしての検索などが可能です。

・マーク機能

見出しにしおりを付けて、あとで簡単に呼び出すことができます。

・ラインマーカー機能

辞典の中の語句や文章に対して、5色のラインマーカーを使って自由にマーキングすることができます。もちろん、一度引いたラインマーカーを消すこともできます。

・別のプログラムから辞典を利用

辞典以外のプログラム(メモなど)の利用中でも、システムトレイの辞典アイコンをタップするだけで、辞典を参照することができます。文字列を選択した状態で辞典アイコンをタップして、すぐに語句の検索を行うことも可能です。(一部、この文字列を選択しての検索方法に対応していないアプリケーションもあります。)

辞典を起動するには

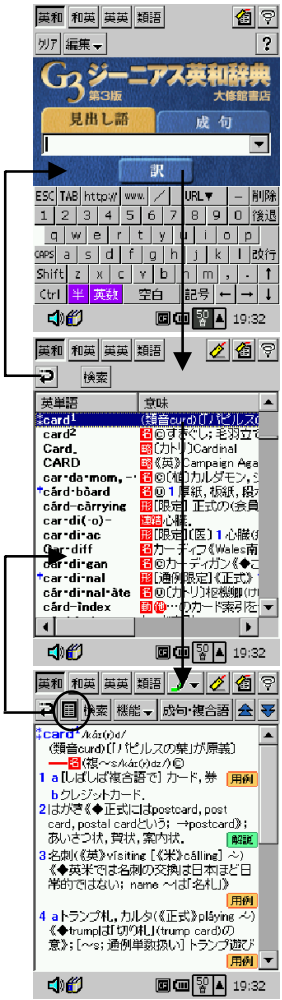
1. l'agendaの電源を切ってください。
2. l'agendaのカードスロットに、同梱のCFカードを挿入します。
   - 自動的に電源が入ります。
3. トップメニューボタン を押します。
   - 専用メニュー画面が表示されます。
4. 使いたい辞典(「ジーニアス英和辞典」「ジーニアス和英辞典」「ロングマン現代アメリカ英語辞典」「英語類語辞典」のいずれか)をタップします。
   - タップした辞典が起動し、探したい語を入力するための【検索画面】が表示されます。
   - 辞典の起動後でも、画面左上の[英和]／[和英]／[英英]／[類語]のいずれかのボタンをタップすることで、辞典の種類を切り替えることができます。
   - ?をタップすると、表示中の辞典のヘルプ画面が表示されます。
   - 辞典を終了するには をタップしてください。

注 意

・辞典使用中は、CFカードは抜かないでください。

辞典の画面遷移について

辞典には、主に次の3種類の画面があります。この辞典を使う際には常にこれらの画面の間を行き来しながら操作を行いますので、はじめに覚えておきましょう。



【検索画面】：語の検索を開始するための画面です。

- 辞典を起動したときには、必ずこの画面が表示されます。
- この画面で調べたい語を入力して、検索をはじめることができます。

【リスト画面】：見出し語を一覧表示する画面です。

- 【検索画面】で調べたい語を入力し 訳 ボタン※1をタップすると、入力した語がこの画面上で頭出しされます。（入力した語に対する該当語が複数ある場合）。該当語がひとつだけの場合は、直接【データ画面】が表示されます。
- 【リスト画面】に表示されている語をダブルタップすることで、その語の詳細を表示する【データ画面】を表示できます。
- をタップすると【検索画面】に戻ります。

【データ画面】：検索データの詳細を表示する画面です。

- 【検索画面】で調べたい語を入力し 訳 ボタン※1をタップしたときに、入力した語に対する該当語がひとつだけの場合は、直接この画面が表示されます。
- 英和辞典の場合は、この画面からさらに、語に対する用例や解説などを表示することができます。
- をタップすると【リスト画面】に戻ります。

※1 英英辞典と類語辞典では、ここで[決定]ボタンをタップしてください。

■辞典を引くには

ここでは、辞典を引くための基本的な操作方法を説明します。

基本的な検索操作

調べたい語を入力して、語の意味を表示する基本操作を説明します。

メ モ

以下の操作の中で出てくる【検索画面】【リスト画面】【データ画面】の概要については、「辞典の画面遷移について」(7ページ)を参照してください。

1. 調べたい語に応じて英和、和英、英英、類語のいずれかの辞典を起動し、辞典の【検索画面】を表示します。
   - ・ 英和、英英、類語辞典の場合は英数入力キーボード、和英辞典の場合はひらがな入力キーボードが自動的に表示されます。
   - ※ 英和辞典の場合は検索方法として「見出し語検索」または「成句検索」を、英英辞典の場合は「見出し語検索」、「成句検索」または「例文検索」を選ぶことができます。英和辞典の成句検索については、12ページを参照してください。英英辞典の成句検索については13ページを、例文検索については14ページを参照してください。
2. キーボードを使って、調べたい語を入力します。
   - ・ 英和、英英、類語辞典のいずれかから語を検索する場合はアルファベットで、和英辞典から語を検索する場合はひらがな、カタカナ、漢字のいずれかで、入力を行ってください。
   - ・ 検索語は、39文字まで入力できます。
3. [訳]または[決定]をタップします。
   - ・ 入力した語に合致した語が【リスト画面】上で頭出しされます。
   - ※ 検索語が多く時間がかかる場合は「検索中」というダイアログが表示されます。この場合、ダイアログの[中止]をタップすれば、検索を中止できます。
   - ※ 入力した語に合致した語が1語だけの場合は、手順4の【データ画面】がすぐに表示されます。
4. 【リスト画面】に表示された語の中から詳細を表示したい場合は、表示したい語をダブルタップします。
   - ・ 該当語の【データ画面】が表示されます。
   - ・ 【リスト画面】から【データ画面】に移った場合は、／ボタンをタップすることで、【リスト画面】で表示されていた前後のデータに移動することができます。
   - ※ データ表示上での略語などの表記についてくわしくは、それぞれ下記を参照してください。
     「英和辞典について」(22ページ)
     「和英辞典について」(43ページ)
     「英英辞典について」(49ページ)
     「類語辞典について」(70ページ)
   - ※ 英和辞典の【データ画面】からは、さらに[用例][解説][成句・複合語]の詳細情報を表示することができます。くわしくは「英和辞典の【データ画面】について」(11ページ)を参照してください。

メ モ

・手順3で[訳]または[決定]をタップし、検索語が見つからなかった場合は、「該当するデータがありません」というメッセージが表示されます。
・英和辞典、英英辞典、類語辞典の【検索画面】で、ひらがな(またはカタカナ、漢字)を入力し[訳]または[決定]をタップした場合は、和英辞典での検索となります。和英辞典の【検索画面】で、アルファベットを入力し[訳]をタップした場合は、英和辞典、英英辞典、類語辞典とその検索モード(見出し語、成句、例文)を選択するダイアログが表示されますので、検索を行う辞典を選択してください。

【データ画面】に表示する文字サイズ／行間隔を変更するには

【データ画面】では、画面上に表示する文字サイズや行間隔を変更して、見やすい表示を選ぶことができます。

文字サイズ .....「拡大」「標準」「縮小」の3種類
行間隔　　.....「広い」「標準」「狭い」の3種類

・文字サイズを変更するには、【データ画面】で[機能▼]をタップし、表示されるメニュー上で[拡大]／[標準]／[縮小]のいずれかをタップしてください。現在選択されている文字サイズにチェックが付きます。
・行間隔を変更するには、【データ画面】で[機能▼]→[行間隔]の順にタップし、表示されるサブメニューで[広い]／[標準]／[狭い]のいずれかをタップしてください。現在選択されている行間隔にチェックが付きます。

【データ画面】上のスクロールバーを隠すには

【データ画面】上のスクロールバーを隠す(非表示状態にする)ことで、表示領域を広げることができます。スクロールバーの表示／非表示を切り替えるには、【データ画面】で[機能▼]をタップし、表示されるメニュー上で[スクロールバー表示]をタップしてください。スクロールバー表示中にタップすると非表示に、非表示中にタップすると表示状態になります。スクロールバーの表示中は、[スクロールバー表示]のメニュー項目に対してチェックが付きます。

【データ画面】上の文字をコピーするには

【データ画面】上の文字をコピーして、他のプログラム(メモやメールなど)に貼り付けることができます。

・【データ画面】上の文字をコピーするには、コピーしたい範囲の文字をドラッグして選択し、[機能▼]→[選択範囲をコピー]をタップしてください。
・【データ画面】上に表示されているすべての文字をコピーしたい場合は、[機能▼]→[すべて選択]をタップしてすべての文字を選択状態にした上で、[機能▼]→[選択範囲をコピー]をタップしてください。

メモ

辞典で使われている文字の中には、辞典以外のプログラム上では表示できない文字(発音記号など)が含まれています。このような文字をコピーして、他のプログラムに貼り付けた場合は、別の文字として貼り付けられます。

辞典の各画面間での移動について

この辞典を利用する際には、さまざまな画面の間を行き来することになります。ここでは、希望の画面への移動方法と、関連する機能・操作について説明します。

検索後に新規の検索を開始するには(【検索画面】に戻るには)

【データ画面】や【リスト画面】の表示中に、【検索画面】に戻ってはじめから検索を行いたい場合は、画面上の文字を選択していない状態で検索をタップしてください。検索をタップして【検索画面】に戻ると、前回入力した検索語はクリアされた状態(空欄の状態)となり、すぐに次の検索語を入力することができます。

【データ画面】に表示されている単語を検索するには

【データ画面】※に表示されている単語を調べたい場合は、【検索画面】に戻らずに直接検索を行うことができます。

・【データ画面】に表示されている単語をドラッグして選択し検索をタップすると、単語がひらがな(またはカタカナ、漢字)の場合は和英辞典での検索となり、アルファベットの場合は英和辞典、英英辞典、類語辞典とその検索モード(見出し語、成句、例文)を選択するダイアログが表示されますので、検索を行う辞典を選択してください。

※英和辞典の場合は、【用例データ画面】/【解説データ画面】(11ページ参照)、【成句データ画面】(11 ページ参照)に表示されている単語からも検索を行うことができます。
また、英英辞典の場合は、【成句データ画面】(13 ページ参照)、【例文データ画面】(14 ページ参照)に表示されている単語からも検索を行うことができます。

ひとつ前の画面に戻るには

をタップすると、ひとつ前の画面に戻ります。最大10画面までさかのぼることができます(最近10画面分の移動の履歴が保持されています)。

メモ

・【データ画面】でをタップし続けて、10画面以上戻ろうとすると、【検索画面】(初期画面)に戻ります。
・【データ画面】で文字列を選択せずに検索ボタンを押し【検索画面】に戻った場合、または[英和]/[和英]/[英英]/[類語]のいずれかのボタンをタップして辞典を切り替えた場合は、その時点でそれまで見ていた画面の履歴はクリアされます。
・マーク画面(16ページ参照)から他の画面に移動した場合、をタップしても、マーク画面には戻りません。マーク画面を表示する前の画面に戻ります。

データ画面からリスト画面に戻るには

【データ画面】から【リスト画面】に戻るには、をタップしてください。

英和辞典の【データ画面】について

英和辞典の【データ画面】からは、さらに用例、解説、成句・複合語の詳細情報を表示することができます。

用例／解説を表示するには

- 【データ画面】で 用例 をタップすると、データ画面で表示中の語の用例を表示する【用例データ画面】に移動します。また、 解説 をタップすると、データ画面で表示中の語の詳細な解説を表示する【解説データ画面】に移動します。
- 各画面を表示する前の【データ画面】に戻るには、↩をタップします。

メモ

【用例データ画面】、【解説データ画面】で可能な操作は、【データ画面】と同じです。

成句・複合語を表示するには

【データ画面】に表示中の語に対して成句・複合語がある場合は、成句・複合語ボタンが画面に表示されます。

- 成句・複合語を表示するには、成句・複合語をタップします。まずはじめに、【成句リスト画面】が表示されます。
- 【データ画面】に戻るには、↩をタップします。
- 【成句リスト画面】に表示された成句または複合語の中の1つの詳細を表示したい場合は、表示したい語句をダブルタップします。
  【成句データ画面】が表示されます。
- ▼／▲ボタンをタップすることで、【成句リスト画面】で表示されていた前後のデータに移動することができます。
- 【成句リスト画面】に戻るには、↩をタップします。

メモ

【成句データ画面】で可能な操作は、【データ画面】と同じです。

■英和辞典の成句検索を利用するには

英和辞典では、複数の語から成る成句を入力して、直接検索する「成句検索」を利用することができます。成句検索は以下の手順で行います。

1. 英和辞典の【検索画面】を表示します。
2. 「成句」をタップして選択します。
3. キーボードを使って、調べたい成句を入力します。
   - 成句を入力する際は、語と語の間をスペースで区切ってください。
4. [訳]をタップします。
   - 入力した語に合致した【成句リスト画面】が表示されます。
   - 【成句リスト画面】から語句を1つ選択して、【成句データ画面】に移動することができます。
   - 【成句リスト画面】、【成句データ画面】については、「成句・複合語を表示するには」(11ページ)を参照してください。

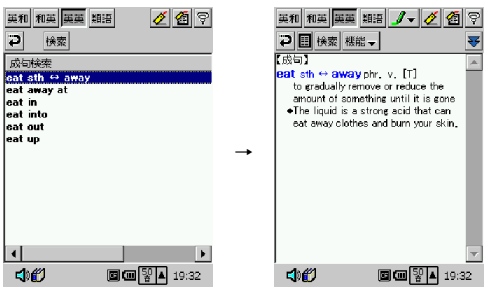
■英英辞典の成句検索／例文検索を利用するには

英英辞典では、複数の語から成る成句を入力して、直接検索する「成句検索」を利用することができます。

成句を検索するには

成句検索は以下の手順で行います。

1. 英英辞典の【検索画面】を表示します。
2. 「成句」をタップして選択します。
3. キーボードを使って、調べたい成句を入力します。
   - 成句を入力する際は、語と語の間をスペースで区切ってください。
4. [決定]をタップします。
   - 入力した語に合致した【成句リスト画面】が表示されます。
   - 【成句リスト画面】から語句を1つ選択して、【成句データ画面】に移動することができます。



【成句リスト画面】　【成句データ画面】

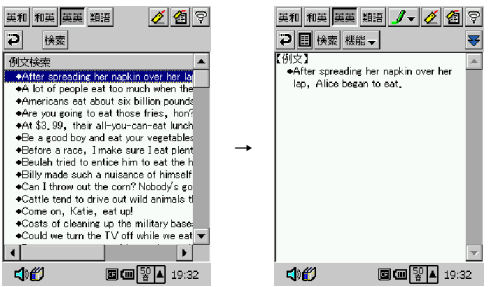
メモ

【成句データ画面】で可能な操作は、【データ画面】(7ページ)と同じです。

例文を検索するには

例文検索は以下の手順で行います。

1. 英英辞典の【検索画面】を表示します。
2. 「例文」をタップして選択します。
3. キーボードを使って、調べたい例文の一部(単語など)を入力します。
   ・ 1語でなく複数の語を入力する際は、語と語の間をスペースで区切ってください。
4. [決定]をタップします。
   ・ 入力した語に合致した【例文リスト画面】が表示されます。
   ・【例文リスト画面】から語句を1つ選択して、【例文データ画面】に移動することができます。



【例文リスト画面】　　【例文データ画面】

メモ

【例文データ画面】で可能な操作は、【データ画面】(7ページ)と同じです。

■ さまざまな検索のしかた

ここでは、最近調べた語を再度検索する「ヒストリー検索」、【データ画面】に表示された文章をドラッグしての検索、検索する語があいまいな場合の「ワイルドカード検索」など、さまざまな検索のしかたについて説明します。
また、語にマークを付けて後から呼び出すことができる「マーク機能」についても説明します。

ヒストリー検索を利用するには

最近検索した100件の検索語が記憶されており、同じ語を再び検索することができます。

1. 参照したい辞典を起動します。
   ・ 辞典の【検索画面】が表示されます。
2. テキストボックス右側の▼ボタンをタップします。
   ・ これまでに検索した検索文字がドロップダウンリストに表示されます。
3. ドロップダウンリストから、再検索したい文字列をタップします。
   ・ タップした語がテキストボックスに入力されます。
4. [訳]または[決定]をタップします。
   ・ この後は、「基本的な検索操作」(8ページ)の手順4以降と同様です。

メモ

・ドロップダウンリストに表示される検索語をすべてクリアするには、[編集▼]→[履歴のクリア]をタップしてください。

ワイルドカード検索を利用するには(英和／英英辞典のみ)

英和・英英辞典では、あいまいな語の検索を行う際に「ワイルドカード」を利用することができます。英和・英英辞典の【検索画面】で語を入力する際に、下記の要領で「？」または「＊」を使用して、検索を実行してください。

「？」を使う .....「？」(半角クエスチョンマーク)は、任意の１文字を表します。
例えば「sta??」と入力した場合、「sta」で始まる5文字の語句(「stage」、「staff」など)が検索されます。

「＊」を使う .....「＊」(半角アスタリスク)は任意の文字列を表します。
例えば「sta＊」と入力した場合、文字数に関係なく、「sta」で始まる語句すべてを検索します。

注意

・和英辞典および類語辞典ではワイルドカードを使うことはできません。
・見出し語検索以外の検索方法(成句検索など)ではワイルドカードを使うことはできません。
・先頭にワイルドカードを使うと、検索に時間がかかる場合があります。

マーク機能を利用するには

ちょうど紙の辞典に付箋を付けるように、後でもう一度参照したい語(見出し語、成句、例文)にマークを付けておくことができます。各辞典ごとに100件までマークを付けることができます。(用例、解説、複合語はマークできません)

メモ

・各辞典で100件を超えてマークを登録すると、古いものから順に消去されます。
・同じ語を複数回マークしても、マークは1つだけ登録されます。

マークを付けるには

マーク付けは、【リスト画面】【データ画面】【成句リスト画面】【成句データ画面】【例文リスト画面】または【例文データ画面】で行うことができます。マークを付けるには、 をタップしてください。

【リスト画面】【成句リスト画面】または【例文リスト画面】の場合

マーク付けしたい語をタップして選択し、 をタップします。「選択した語句をマークしました」というメッセージが短く表示され、マーク付けが行われます。

【データ画面】【成句データ画面】または【例文データ画面】の場合

をタップします。「表示中の語句をマークしました」というメッセージが短く表示され、マーク付けが行われます。

マークを付けた語を参照するには

マーク付けした語を参照したい場合は、次の手順で操作します。

1. をタップします。
   ・「マーク画面」が表示されます。
2. 参照したい辞典に応じて、[英和]、[和英]、[英英]または[類語]タブをタップします。
   ・ 各辞典でマーク付けした語が一覧表示されます。
3. 参照したい語をタップして選択し、をタップします

マークを削除するには

マークをひとつずつ削除したい場合は、次の手順で操作します。

1. をタップします。
   ・「マーク画面」が表示されます。
2. [英和]、[和英]、[英英]または[類語]タブをタップします。
   ・ 各辞典でマーク付けした語が一覧表示されます。
3. マークを削除したい語をタップして選択し、 をタップします。
   ・ 選択した語に対するマークが削除されます。

すべてのマークを一括して削除するには

登録したマークを辞典ごとに、次の手順で一括して削除することができます。

1. 🗒をタップします。
   ・「マーク画面」が表示されます。
2. マークを一括削除したい辞典を、[英和]、[和英]、[英英]または[類語]タブをタップして選択します。
3. すべて削除をタップします。
   ・「マークをすべて削除しますか？」という確認ダイアログが表示されます。
4. 削除して良い場合は[はい]をタップします。
   ・ 削除するのをやめる場合は[いいえ]をタップします。

■ ラインマーカーを利用するには

辞典の【データ画面】※1上では、ピンク、グリーン、イエロー、ライトブルー、オレンジの5色のラインマーカーが利用できます。重要な意味や用法などを色分けしてマーキングするなど、英語学習にご利用ください。

※1 英和辞典の場合は、【用例データ画面】／【解説データ画面】(11ページ参照)、【成句データ画面】(11ページ参照)でもラインマーカーを引くことができます。
また、英英辞典の場合は、【成句データ画面】(13ページ参照)、【例文データ画面】(14ページ参照)でもラインマーカーを引くことができます。

ラインマーカーを引くには

1. 【データ画面】で、ラインマーカーを引きたい文字列をドラッグして選択します。
2. をタップすると表示されるドロップダウンメニューから、希望するマーカーの色(ピンク、グリーン、イエロー、ライトブルー、オレンジ)を選びます。
   ・ 手順1で選択した文字列にラインマーカーが引かれた状態になります。

ラインマーカーを消すには

1. すでにラインマーカーを引いてある部分のうち、ラインマーカーを消したい部分をドラッグして選択します。
2. →[消す]をタップします。
   ・ 手順1で選択した範囲のラインマーカーが消えます。

メモ

上記の操作は、をタップする代わりに、[機能▼]→[ラインマーカー]をタップしても、同じ操作を行うことができます。

■ 他のプログラムの利用中に辞典を引くには

他のプログラムの利用中でも、すばやく辞典を呼び出して利用することができます。英語教材プログラム等の利用中に、英単語の意味を調べたい場合などに便利です。辞典プログラムを起動する場合とは異なり、辞典は現在使用中のプログラム画面に重なる形で、小さなウィンドウ(辞典ウィンドウ)に表示されます。

検索語ダイアログ

辞典ウィンドウ

注意

本機能を利用するには、同梱のCFカードをI'agendaのカードスロットに挿入しておくことが必要です。同梱のCFカードが挿入されていると、システムトレイに アイコンが表示されます。同梱のCFカードが挿入されていないと、 アイコンは表示されません。

調べたい語を入力して辞典を引くには

調べたい語を直接入力して辞典を引きたい場合は、現在表示中の画面で文字列を何も選択していない状態で、以下の操作を行ってください。

1. システムトレイの アイコンをタップします。
   - 検索語ダイアログが表示されます。
2. 辞典で調べたい語を39文字以内で入力します。
   - 文字の入力時は、検索語ダイアログの[編集▼]メニューの各コマンド(コピー、貼り付けなど)を利用することができます。詳しくは「検索語ダイアログの編集メニューについて」(20ページ)を参照してください。
   - アルファベットを入力した場合は、検索語ダイアログ上の[編集▼]→[検索設定](詳しくは20ページの「検索設定について」を参照)で選択されている辞典から、ひらがな／カタカナ／漢字を入力した場合は和英辞典から、検索が行われます。
3. [検索]をタップします
   - 検索結果※1が辞典ウィンドウに表示されます。
4. 辞典ウィンドウでは、 をタップするとひとつ前の語を、 をタップするとひとつ後の語を表示することができます。同音異義語を調べる場合などに便利です。
5. 辞典ウィンドウを閉じるには、辞典ウィンドウの をタップします。
   - 元のプログラムの画面に戻ります。

※1・ 検索結果として表示される内容は、辞典プログラムの【データ画面】に表示される内容と同じです。【リスト画面】の内容は表示されません。

・ 検索した結果、一致する見出し語がなかった場合は、「一致するデータはありません」というメッセージが表示されます。この場合は[OK]をタップしてメッセージ画面を閉じて、検索語を変えて試してください。

画面上に表示されている単語を選んで辞典を引くには

画面上に表示されている文字列中に含まれている単語を選んで辞典を引くことができます。以下の手順で操作してください。(一部、この検索方法に対応していないアプリケーションもあります)

1. 画面上に表示されている単語をドラッグして選択します。
   ・ アルファベットを選択した場合は、検索語ダイアログ上の[編集▼]→[検索設定](詳しくは20ページの「検索設定について」を参照)で選択されている辞典から、ひらがな／カタカナ／漢字を選択した場合は和英辞典から、検索が行われます。
2. システムトレイの アイコンをタップします。
   ・ 検索結果が辞典ウィンドウに表示されます。
   ・ この後の操作は、「調べたい語を入力して辞典を引くには」の手順4以降と同様です。

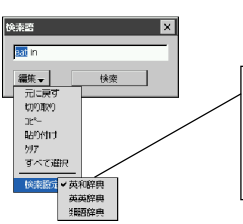
検索語ダイアログの編集メニューについて

検索語ダイアログで表示される[編集▼]メニューの各コマンドの働きは、以下の通りです。

元に戻す .....現状入力されている文字を、1つ前に入力した文字に戻します(選択ごとに、現状の入力文字と、1つ前に入力された文字の間で切り替わります。)
切り取り .....選択されている文字を切り取り、クリップボードに保持します。
コピー .....選択されている文字を、クリップボードに保持します。
貼り付け .....クリップボードに保持されている文字を、カーソル位置に貼り付けます。
クリア .....選択されている文字を消去します。
すべて選択 .....入力されている全ての文字を選択します。
検索設定 .....「検索設定について」を参照

検索設定について

検索語ダイアログでアルファベットを入力して検索を行う場合や、画面上に表示されているアルファベットを選択して、その語で検索を行う場合には、どの辞典で検索を行うかを選択することが必要となります。選択は「検索設定」によって行います。
検索語ダイアログで、[編集▼]→[検索設定]の順にタップし、表示されるサブメニューから、希望する辞典([英和辞典]／[英英辞典]／[類語辞典])をタップして選択します。



・ タップした辞典名にチェックが付き、選択されたことを示します。
・ 初期設定では「英和辞典」が選択されています。

辞典ウィンドウの操作について

検索結果として表示される辞典ウィンドウでは、次の操作が可能です。

［編集▼］メニュー

［コピー］..... 辞典ウィンドウ上で選択した文字列を、クリップボードに保持します。

［すべて選択］.... 辞典ウィンドウ上のすべての文字列を選択状態にします。

..... 現在表示中のひとつ前の見出し語を表示します。

..... 現在表示中のひとつ後の見出し語を表示します。

..... 辞典ウィンドウを閉じます。

■ 英和辞典について

I 見出し語

A 見出し語の並べ方

① アルファベット順に並べてある。同じつづりで大文字・小文字の違いのあるものは，小文字→大文字の順。

② 同じつづりで語源の異なる語は別見出しとし，右肩に番号をつけた(ただし，説明の都合で同語源でも別立てとしたものがある)。

john　John　/　bill[1]　bill[2]　Bill

③ 略語の形(ピリオドの有無，大文字か小文字か)は必ずしも1つに決まっていないが，大文字の略語はピリオドなしとすることが近年普通になってきているので，実情に応じてピリオドなしの形を優先的に示した。

B 重要語の表示

重要度に応じて次のような記号をつけてランクを示した。

⁂	Aランク	中学学習語	約1100語
⁑	Bランク	高校学習語	約3400語
†	Cランク	大学生・社会人に必要な語	約5100語
無印	Dランク	その他の語	約69400語

C いろいろなつづりがある場合

① 米国式と英国式のつづりがあるときは，米国式を優先し，英国式つづりは参照見出しとした。

⁂ **col · or,**《英》**- · our** ... 名

⋮

⁂ **col · our** / kÁlə/《英》名動＝color.

◇語尾が「**-ize,**《英ではしばしば》**-ise**」の語は，Dランクの場合，参照見出しを省略した。

② (　)は省略可能の部分，-は最初のつづりとの共通部分を示す。

Bern(e)　［Bern とも Berne ともつづる］

Bah · rain, - · rein　［Bahrain とも Bahrein ともつづる］

(-)はハイフンつきまたはハイフンなしの1語となることを示す。

re(-)estimation　［re-estimation または reestimation］

D 分節

① 音節の切れ目は,次の2種類の記号で表示した。

· (小さい中点)

行末で切るときはここで切って良い。

- (細い短いハイフン)

行末で切るときはここで切らない方が良い。

cer･e-mo･ny

[この語は行末で切る場合 m の前では切らない方がよいことを示す]

これは主として次のような基準によっている。

(1) 行末で切った場合でも発音がしやすく,また語の構成がわかる。
(2) 1文字だけ行末に残ったり行頭に来たりしない。
(3) 4文字以下の語は切らない。
(4) 人名(およびそれに準ずるもの)は原則として切らない。(ただし人名が一般の名詞や形容詞などとしても用いられるときは,人名でないときの切り方を示した。)

② 発音によって切り方が違うときは,最初に掲げた発音による切り方を示した。

1語化した複合語(非分離複合語)では,構成要素の間だけを · で表示し,他の分節の表示は省略した。

E 2語見出し(分離複合語)

2語以上からなる見出し語(以下「分離複合語」という)は，最初の語の見出し語表示中に 成句･複合語 ボタンをタップして表示されるリストとして揚げた(アルファベット順)。例えば，table knife は見出し語 table を表示中に 成句･複合語 ボタンをタップして表示されるリストとして揚げた(アルファベット順)。

(成句と複合語のデータが両方存在する場合は、成句→複合語の順番に表示した)

◇ New のつく地名(New Zealand など)は new の見出し語には入れないで独立の見出し語とした。

F 派生語の扱い

① 次のような接尾辞を付けてできた派生語は，D ランクの場合には，見出し語の末尾(すべての品詞の後)に続けて掲げることがある。

-ability	-able	-al
-an	-ed	-er
-ic	-ical	-ing
-ish	-ism	-ist
-ity	-like	-ly
-ment	-ness	-or
-ship	-tion	など

この扱いをした派生語はアルファベット順によらない(見出し語検索では検索できません)。

② 派生語のアクセントや発音が主見出し語と異なるときは，これを明記した(特に発音やアクセントを示してないものは主見出し語と同じである)。

③ 〜は見出し語まるごとの代用である。

blóod･less/-ləs/形.....

〜･ly副...

〜･ness名...

[bloodlessly,bloodlessnessとなることを示す]

II 発音

A 発音の表記

① 発音記号は別表「発音記号表」のものを用い，/　/に入れて示した。省略可能な音は(　)に入れて示した(省略可能なəはəとした。また「発音記号表への注」の1も参照)。第1強勢(ストレス)は ´，第2強勢は ` をつけた。複数の発音が併記してある場合は，最初に示したものが最も一般的な発音である。

② 発音の一部を省略するときは，省略部分をハイフン (-) で示した。発音が同じで強勢の位置だけが異なるときは，ダッシュを使って/ˊ－－ˋ－/のように表記した(1音節につき1つのダッシュ)。

③ 品詞によって発音が違うときは，見出し語の直後に一括して掲げた(重要語についてはそれぞれの品詞のところにも示した)。動＋は「動詞の場合はこの発音もある」と言う意味。

B 米音と英音

米国式と英国式の発音が異なるときは，米音・英音の順で示し，間に｜を入れた。ただし，米音と英音が規則的に対応する場合には，「発音記号表への注」の1に示すような読み替えを行う。

C 音節主音的子音の発音表記

主として日本人の発音に多い誤りを防ぐ配慮から，語の終りにくる「音節主音的子音」/l/ /m/ /n/ の前では通例母音を表示しない。詳しくは「発音記号表への注」の5参照。

D 複合語の発音

① Cランク以下の非分離複合語・ハイフン付き複合語については，特に必要な場合を除いて，発音表記を省略し，強勢だけを示した。分離複合語も強勢だけを表示した。ただし，複合語の構成要素がこの辞典の見出し語にない場合や，特にわかりにくい場合などは発音を示した。

② 形容詞の限定用法(または名詞の形容詞的用法)において「強勢移動」(→「発音記号表への注」の7)がしばしば起こる語には，《◆限定用法では通例/ˊ－－ˋ/》のように注記した。この場合，分離複合語(→I-E)についてもしばしば強勢移動が起こる。

E 派生語の発音

Cランク以下の派生語は，元になった語に追加する部分・発音の違う部分だけを示した。Dランクで次のような語尾で終る語は，特にまぎらわしい場合を除いて，発音を示さない。

-er /-ə(r)/

-ing /-iŋ/
-ed /-id,-d,-t/
-ist /-ist/
-ism /-ɨzm/
-ly /-li/
-ment /-mənt/
-ness /-nəs/
-less /-ləs/

F 接頭 接尾 連結

接頭 接尾 連結 の発音は代表的な発音だけを示した。実際の語のなかでは他の発音もありうる。

G《発音注意》・同音・類音

発音がわかりにくい語や日本人がよく誤って発音する語には《発音注意》《アクセント注意》(これは「強勢の位置に注意」の意)と注記した。発音との関係などでつづりを誤りやすい語には《つづり注意》と注記した。

Cランク以上の語では，発音表記の後に (同音　) として見出し語と同じ発音の語を掲げた。見出し語または掲げた同音語に複数の発音があるときも,同じ発音があればこれに含めている。なお、米・英の差があるときは次のようにした。

soar /sɔ:(r)/ (同音《英》saw)［見出し語の発音に米英差があることを示す］
saw[2] /sɔ:/ (同音 soar《英》)［掲げた同音語に米英差があることを示す］

日本人の立場から見て発音が似ていてまぎらわしい語を 類音 として掲げた。

fork /fɔ:(r)k/ (類音 folk)

III 本義(中核的意味)・原義(語源的意味)

A 本義・原義

A，Bランクの語については，意味の総合的な理解を助けるため，その語の語義全体の基本となる「本義(中核的意味)」，もしくは「原義(語源的意味)」を〔　〕に入れて示した。

watch　〔「目を覚ます」が原義〕
receive　〔後に(re)取る(ceive)〕
go　〔発話が行なわれた時点または発話の中で示された時点に，go の主語が話し手[聞き手]の所から他の場所に「行く」というのが本義.「行く」と「至る」の 2 義に分けられる (⟷ come). cf. take II〕

◇「原義」としてどこまでさかのぼったものを示すかは，語の事情によりさまざまである。

時には必要により語義の派生的・発展的意味をも示した。

ear　〔「耳」の機能面から「聴覚・傾聴」，形状面から「(水差しの)取っ手」などの意が生じた〕

〔→able〕は able の項を参照せよ，の意。

Cランク以下の語や成句についても，その語句の理解に役立つ語源的情報などを適宜〔　〕で示した。

B 由来

外来語(完全に英語化しているものも含む)は，その由来する言語名を〔フランス〕〔スペイン〕などとして示した。

〔聖〕は聖書，〔Shak.〕はシェイクスピアの作品に由来する句・用法であることを示す。

IV 品詞

A 品詞の表示

① 品詞は次のように示した。

名 名詞　　代 代名詞

動 動詞　　自 自動詞

他 他動詞

助 助動詞　　前 前置詞

形 形容詞　　副 副詞

間 間投詞　　接 接続詞

接頭 接頭辞

接尾 接尾辞

連結 連結形

略 略語

記号 記号

② 分離複合語には品詞を示していない。ただし，外来語などわかりにくいものには示した。

B＜派＞

A，Bランクの語については，重要な派生語を〈派〉として品詞表示の前に掲げた。

V 語形変化

A 語形変化の表示の原則

① 名詞，動詞，形容詞，副詞の語形変化は，品詞表示のすぐ後に(　)に入れて示した。

② A，Bランクの語については，規則変化もすべて発音とともに示した。
Cランク以下の語については，不規則変化と，注意を要するもの(子音を重ねる場合など)だけを示した。非分離複合語・ハイフン付き複合語については，原則として後半の要素(例えば bookshelf では shelf)の変化と同じであるので，省略した場合もある。

③ 〜は見出し語まるごとの代用，ーは見出し語の一部(音節の切れ目から前)の代用である。/〜/ は(語形変化した場合でも)発音が見出し語と同じであることを示す。

B 名詞の複数形

(複　)と表示した。つづりが -o で終る語，その他注意を要する語については，Cランク以下でも複数形を示した。

C 動詞の語形変化

① 動詞の語形変化は

(三人称単数現在形 ; 過去形, 過去分詞形 ; 現在分詞形)

のように示した。

過去形と過去分詞形が同じ場合は 1 回だけ表示した。

2つ以上の形があるときは or で示した。

run (~s/-z/; ran/rǽn/, run/rʌ́n/; ~ · ning)

［三人称単数現在形 runs; 過去形 ran; 過去分詞形 run; 現在分詞形 running であることを示す］

keep (〜s/-s/;kept/képt/;〜·ing)

[過去形·過去分詞形はともに kept であることを示す]

spring... 動 (~s/-z/; sprang/spræŋ/ or《米》sprung/sprʌ́ŋ/, sprung; ~ · ing)

［過去形は sprang（または米国では sprungも用いる）, 過去分詞形は sprung］

leap (~s/-s/; leaped/lí:pt | lépt,lí:pt/ or《主に英》leapt/lépt,《米＋》lí:pt/; ~ · ing)

［過去形・過去分詞形は leaped で，ほかに主に英国で用いる形として leapt があることを示す］

② C ランク以下の語では規則変化の部分は省略するほか，下の例のように適宜簡略な方法で示した。

out · shoot (- · shot)　［過去形・過去分詞形 outshot］

flop (-pp-)　［過去形・過去分詞形 flopped, 現在分詞形 flopping］

D 形容詞・副詞の比較変化

① A，B ランクの 1，2 音節からなる形容詞・副詞については比較変化をすべて示した。(-er型) とあるのは原級に -er，-est を付加するものである。他の場合は (- · i · er[est]) のように明記した。

3音節以上で表示のないものは more 型である。

◇ 現代英語では -er 型だった語がしだいに more 型へ変わっていく傾向がある。くわしくは more 副 の項の ◇［語法］参照。

② C ランク以下の語では，表示のない場合，1 音節の語では -er 型，2 音節以上の語では more 型である。-y を i に変えて -er をつけるものも単に (-er型) と表示した。2 音節以上の語で -er 型のもの，1 音節の語で more 型のもの，その他注意を要するものは明示した。

◇ (or -er型) は more 型と -er 型の両方が用いられることを示す。

-er, -est をつけるとき語尾の子音を重ねるものは (-tt-) (《英》-ll-) などと示した。

E (∅比較)

A，B ランクの語を中心に，形容詞・副詞で通例比較変化しない語・語義には，(∅比較)と表示した。

VI 語義・文型表示・語法・用例

A 語義の区分・順序

語義は **1, 2, 3** ...の数字で区分し，さらに必要に応じて **a, b, c** ...やセミコロン(;)で区切って示した。多くの語義のある語では，**Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ** ...で大きな意味ブロックに分けた。
語義を掲げる順序は，現代の使用頻度順を原則としながら，意味の関連・展開がわかりやすい順序となるように工夫した。

B 文型インデックス

重要な動詞については,冒頭に文型インデックス(index の表示)を設け,文型から意味をすばやく検索出来るようにした。

C 語義の示し方

① 語義は，説明的な訳は避け，なるべくそのまま訳語として使えるような形で示すようにした。
訳語のうち省略可能な部分や補足的な部分は ( ) に入れた。

can[2] ... 名 ... 2 かん詰め(のかん)
[「かん詰め」または「かん詰めのかん」の意になる]

特に，「内包的・補助的意味」(訳語としては現れないことが多いが，通例そういう意味をこめて用いられるという部分)は積極的に ( ) で示すようにした。

cleanly ... 形 ... (性格・習性として，神経質なほど)きれい好きな
channel ... 名 ... 2 (船が通れる)水路

[ ]は直前の語句と交換ができる語句を示す。

decolorize ... 動 ...脱色[漂白]する
[「脱色する」または「漂白する」の意になる]

語義の定義や内容説明は《 》に入れて示した。

② A，Bランクの重要な語義については，文型を指示し，用法の注記などを特に詳しくした。

D 用法の指示，文法上の注記

さまざまな用法・文法上の注記を [ ] に入れて示した(～は見出し語の代用。ただし，2字以下の語と助動詞は全部つづった)。

以下に主なものを掲げる。

△語形

[P~] 見出し語は小文字だが，大文字で用いる。
[p~] 見出し語は大文字だが，小文字で用いる。
◇分離複合語では次のような表示も用いる。
civil ... **~ wár** (1)... (2)[the C~W-]a)〔米史〕南北戦争
[the Civil War という形になることを示す]

△名詞の用法

［the ~］［a ~］［an ~］　それぞれの冠詞つきで用いる。

［one's ~］　所有格の人称代名詞 (my, your, his, her, ourなど)つきで用いる。

［~s］［~es］　複数形で用いる。(子音＋ y で終る音については［~ies］と示した。)

◇「大文字で複数形」のような場合は，たとえば［J～s］(judge の項)としないで［Judges］と全部つづった。

分離複合語で後の語が複数形になるときは［-s］とした。

［単数扱い］［複数扱い］［単数・複数扱い］(→VII-C)

［形容詞的に］　限定用法の形容詞のように用いる。

△形容詞の用法

［叙述］　叙述用法 (predicative use)(be, remain など連結動詞 (copulative verb) の補語となる用法)で用いる。

［限定］　限定用法 (attributive use)(名詞の直前［または時に直後］に置いてその名詞を直接修飾する用法)で用いる。

［他動詞的に］　他動詞に由来し，「(…を)…させるような」といった意味で用いる。

△動詞の用法

［be ~ed］　受身形で用いる。

◇［be ~ed］および［通例 be ~ed］については，それに続く訳語も受身にしたものを掲げた。

［be ~ing］　進行形で用いる。

◇受身形・進行形で用いるもののうち重要なものは，文型表示(→VI-E)の形で示した。

◇［命令形で］［通例命令形で］では，それに続く訳語も命令調にした。

△そのほか，さまざまな用法指示

［a ~ of ...］［数詞の前で］［比較級を強めて］［比喩的に］［皮肉的に］など

［俗用的に］は，専門的な語が本来の専門用語としてでなく通俗的な意味で用いられた場合をいう。

名詞の C U は VII を参照。

E 文型表示

① 重要な動詞および一部の形容詞(主としてA，Bランクの重要な語義のある項目)については，S, V, O (または O_1, O_2), C, M を用いて文型を表示した。

S＝主語　V＝動詞　O＝目的語　C＝補語

M＝副詞的修飾語句(前置詞句，副詞など)

動詞の文型は次の 7 文型を基本とする。

SV	主語＋動詞	第Ⅰ文型A
SVM	主語＋動詞＋副詞的修飾語(句)	第Ⅰ文型B
SVC	主語＋動詞＋補語	第Ⅱ文型
SVO	主語＋動詞＋目的語	第Ⅲ文型A
SVOM	主語＋動詞＋目的語＋副詞的修飾語(句)	第Ⅲ文型B
SVO_1O_2	主語＋動詞＋間接目的語＋直接目的語	第Ⅳ文型
SVOC	主語＋動詞＋目的語＋補語	第Ⅴ文型

② 不定詞，動名詞，that節, wh節などを伴う場合や，ある前置詞を決まって用いる場合などは，それも含めた文型を示した。用いたり用いなかったりする部分は ( ) に入れた。/は，その両側の一部分が交換可能であることを示す。

［SV to do/SV doing］

［SVO_1 to O_2/SVO_2O_1］

［SVO (to be) C/SVO (that)節］

［it is ~ of O to do］

◇O_1,O_2は前置詞の目的語も含め,使用する名詞に文頭から順に番号をつけたものである。したがって,O_1=間接目的語(与格),O_2=直接目的語(対格)という意味ではない。なお,便宜上,目的語以外にもOを用いることがある

(例:[SV(O's) doing])

◇“to do”“doing”という表示は to be, beingを含む。to be, being だけのときは“to be”“being”とする。

F スピーチレベル

語の使われる地域，文体，時代的差異などに関するスピーチレベルは，《 》に入れて示した。主なものは次のとおり(指示のない語は普通に用いられる一般語である)。

△社会的差異

《非標準》　非標準英語(標準英語には特に表示しない)

△レジスター(標準英語内における機能的差異・スピーチレベル)

《正式》　堅い書き言葉・話し言葉(時に《文》に通じる)

《略式》　くだけた書き言葉・話し言葉

《俗》　俗語，非常にくだけた話し言葉

《性俗》　性的な俗語(下品な語，タブーとされる語も含む)

《文》　文語，堅い書き言葉(時に《古》《詩》に通じる)

《詩》　詩で用いる言葉

《まれ》　使用頻度のきわめて低い言葉

△年齢的・人種的・性的差異

《学生語》　《小児語》

《黒人語》　米国の黒人特有の言葉

△地域的差異

《方言》　ある地域でだけ用いる。《英方言》とあれば英国のある地域でのみ用いる言葉ということになる。

《米》　米国でのみ用いる。

《英》　英国でのみ用いる。

《カナダ》　カナダでのみ用いる。

《豪》　オーストラリア・ニュージーランドでのみ用いる。ニュージーランドだけで用いる場合は特に《ニュージーランド》と表示した。

《南ア》　南アフリカ共和国でのみ用いる。

《イング》　イングランド方言

《北イング》　北部イングランド方言

《スコット》　スコットランド方言

《アイル》　アイルランド方言

その他，必要に応じていろいろな地域名を用いた。

△時代的差異

《やや古》　《古》　《廃》

△その他

《愛称》　《掲示》　《Eメール》

その他，場面を表す短い言葉(《空港のアナウンス》《店員の言葉》など)を《　》で示した。

以上を組合わせて《米古》《米略式》《豪俗》などという表示も用いた。

また「主に」「…ではしばしば」「…では時に」「もと」などの言葉も用いて，特に地域ごとの使用実態を示すようにした。

組合わせる場合，「または」の意では中点(・)を入れた。

《主に英》　主に英国で用いる。米国で用いることもある。

《英では主に》　英国では主にこの語句・語形を用いる。他の語句・語形を用いることもある。米国では用いない。

《英ではしばしば》　英国ではこの語句・語形を用いることもよくある。米国では用いない。

《英では時に》　英国では時にこの語句・語形を用いることもある。米国では用いない。

《英まれ》　英国でまれにこの語句・語形を用いることがある。米国では用いない。

《英古》　英国で古い用法でのみ用いる。米国では用いない。

《英・カナダ》　英国とカナダでのみ用いる。

米国起源の語であるが英国でも普通に用いられるものは通例無標示。ただし《もと米》を付した場合もある。

G《PC》《侮蔑》

性差別·人種差別·障害者差別等につながりうる語句には，非差別的表現を，《PC》という表示をつけて掲げた。(PC＝politically correct)

例えば，人間全体を表す男性名詞(例：man, mankind)，男女両性を含む男性職業名詞(例：salesman, congressman)，ことさら男女の違いを強調する語(例：lady doctor, waitress)などに対して，男性に偏しない両性平等に使える語を示した。

assemblyman　議員 (《PC》assembly member)

特定の人種·民族や同性愛者などを見下ろした文脈で用いられ，侮辱と受けとられる語には《侮蔑》という表示をつけて,特に使用上の注意を促した。

Chinaman《侮蔑》中国人 (《PC》Chinese (person))

H 専門語

専門的な語，決まった分野で用いられる語では，分野を〔 〕で示し，多くは略号を用いた(「専門分野略語表」参照)。ただし，訳語から明らかなものは表示を略した場合がある。

I 選択制限

動詞の主語・目的語・補語，形容詞の被修飾語，前置詞の目的語などにどういう内容の語がくるか(選択制限)を，語義の中に〈 〉で示した。文型表示をしたものは，その中の S, O, C などと対応させてある(SVO 構文の他動詞など誤解のおそれのない場合は〈 〉の前の O は省略した)。

call ... 動 ...**1a** [SVO]〈人が〉×〈人・名前・動物など〉を (大声で)呼ぶ
[主語については〈…が〉のように示す]

derive... 動 ...**1 a** [SVO$_1$from O$_2$]〈人などが〉O$_2$〈本源となる物・事〉からO$_1$〈利益・楽しみ・安心・知識など〉を引き出す，得る

decent... 形 ...**2**...〈態度・考え・言葉・人などが〉上品な，慎み深い

desire... 動 ...**1 a** [SVO/SV to do]〈人が〉×〈物・事〉を[…することを]強く望む
[[SVO] の場合「〈物・事〉を強く望む」,[SV to do] の場合「…することを強く望む」の意となる]

J 連語関係

① その語と一緒によく用いられる前置詞(場合により動名詞・不定詞など)を，語義の後に〔 〕に入れて示した。それに対応する訳語も〔 〕で示した。

fire... 動 ...**1**〈人が〉×〈銃・弾丸など〉を〔…めがけて〕発射する，発砲する，〈矢を〉放つ〔at, into, on, upon〕

fight... 名 ...**1**〔…に対する／…のための〕戦い，戦闘，闘争〔against/for〕
[「…に対する」の意では against,「…のための」の意では for を伴うことを示す]

② 動詞にしばしば伴う副詞辞は，+印をつけて ( ) に入れて示した。

figure... 動 ...**1** …を計算する，合計する (+up)

K いろいろな注記・記号

① 語義の後の（ ）内に同義語または言い換え可能な英語を示した。
語義になんらかのスピーチレベルが示してあるときは，できるだけ中立的な語(句)を（ ）内に示すようにした。
語義・訳語についての関連情報や語法説明・語のイメージなどは《◆ 》に入れて示した。説明の長いものは 解説 ボタンを表示し、このボタンをタップして参照するようにした。

② 必要に応じて，次のような表示を用いた。

◇［関連］　◇［語法］
◇［文化］　◇［事情］
◇［類］　類義語
◇［比較］　日本語と英語の比較
◇［表現］　主に英語で表現する場合に役立つ知識
× 文法的に誤った英語，語法上不適切な表現
◇時として使われることがある言い方でも，標準的とはいえないもの，外国人学習者としては用いない方が無難なものには×印をつけた場合がある。
cf. …を参照せよ
→ …を見よ(直接関連する情報が他の箇所にある場合)
←→ 反意語・対になる語
《外来形容詞》主にラテン語・ギリシア語からの外来語による形容詞形。学術語として用いるものが多い。

L 用例

① 用例は、各項目の語義の後に 用例 ボタンを表示し、このボタンをタップして参照するようにした。各用例の先頭に ¶ を示し、重要な語義については特に多く示すようにした。
用例の中では，見出し語と同じものを～で示した。ただし，2字以下の語，助動詞，不規則変化した形は全部つづった。
語形変化した形については ～s, ～es, ～ed, ～ing のようにした。語尾の y を i に変えて es をつけるものは ～ies とした。

②［ ］は，語義の場合と同じように，直前の語(句)と交換が可能であることを示す。ただし，英語とその訳の両方に［ ］があるときは，［ ］の前の語(句)同士，［ ］の中の語(句)同士が原則として対応している(これは注記などでも同じ)。

(**eclipse**の項で) a solar [lunar] ～ 日［月］食
［a solar eclipse が「日食」，a lunar eclipse が「月食」となることを示す］

M 用例の言い換え

英文の理解の一助とするため，重要語については用例の言い換え（または言い換え不可についての情報）をスペースの許す限り示してある。

（**cold**の項で）It's ~ in this room. =This room is ~. =I feel ~ in this room. この部屋は寒い.

（**collapse**の項で）Under the weight of the snow the roof of the house ~d. 雪の重みで家の屋根がつぶれた (=The weight of the snow ~d the roof ...)［他を用いた言い換え］

◇ 言い換えに用いた等号（＝）はまったく等しいという意味ではなく，むしろ ≒ ということで，「ほとんど等しい」とか，あるいは「だいたいこのようにも言える」といったかなり幅のある記号である。

（**student**の項で）a ~ at [×of] Oxford University オックスフォード大学の学生.

N イントネーション，強勢など

イントネーションや強勢によって意味の違いが生じる場合（「部分否定」と「全否定」など），丁寧さの度合いが異なってくる場合（Thank you. (【⤴】)(【↝】) など），その他必要に応じて用例にイントネーションや強勢を示した。イントネーションは，高低変化の終った箇所に，次のような記号で示した。

(1) 【↝】（下降調） 通例平叙文で用いられ，文の完結を示す。断定的口調。疑問文では同意や情報を求める場合に用いられる。

That's a pity [too bad].(↝) それは残念.

(2) 【⤴】（上昇調） 通例疑問文で用いられ，質問・勧誘・依頼などを表す。また文中で，文が未完結であることを示す。

［丁寧な質問］ Whó ís it(, please)?(⤴) どなたですか.

［勧誘］ Will you have some coffee with me? (⤴) 一緒にコーヒーを飲みませんか.

Do you drink whisky (⤴) or /ə(r)/ brandy? (⤴) ウイスキーかブランデー（それとも他のもの）でも飲みますか.

［依頼］ Perhaps you would be good enough to read this. (⤴) これを読んでいただけるとありがたいのですが.

(3) 【↝】（下降上昇調） 通例文頭の文副詞・挿入句［節］で用いる。文尾では対比とか話し手の含みのある態度を示す。

［文頭］ To begin with (↝) ┆ he is unexperienced; secondly (⤴) ┆ he is unreliable. 第一，彼は経験が浅いし，第二に信用できない.

［文尾］ I like my lunch hot. (↝) 温かければ昼食をいただきます《◆(↝) では「昼食は温かいのがよい」》.

(4) 【↝】（部分下降調） 中途半端な下降で，未完結あるいは話し手のちゅうちょなどを表す。

［未完結］ Like you (↝), I'm nòt táll.(↝) 君と同じで私も背が高くない.

［ちゅうちょ］ I beg your pardon. (↝) 失礼ですが.

この他，┆ によって，若干の休止があることを示した。

O 強勢の意味・機能

強勢の違いが文法上の働きを示す例をあげる。

(1) 「a wálking díctionary 生き字引，物知り (=a dictionary that walks)」と「wálking stìck ステッキ，散歩用杖 (=a stick for walking)」の違いは，walking が前者では分詞，後者では動名詞であることによるが，それが /ˊ ˋ/, /ˊ ˊ/ の強勢型の違いで表されている。

(2) in any event は成句としては「in ány evènt とにかく，いずれにしても」であるが，in ány evént では文字通り「どんなできごと [行事，種目] においても」となる。

(3) 「She is a prétty, intélligent girl. 彼女はかわいくて頭のよい子だ」の pretty は形容詞であるが，「She is a prètty intélligent girl. 彼女はかなり頭のよい子だ」では副詞である。

VII C と U

A 名詞の C と U

名詞には，数えられるものに C (countable), 数えられないものに U (uncountable) の記号をつけた。語義番号の前にある記号は全部の語義に共通である。番号の後の C U は，次の記号があるまで適用される。

B C と U の意味

① C 名詞は，単数形では a, an (または the, my, any) などの決定詞が必要であり，複数形にすることができる。

U 名詞は，冠詞(または他の決定詞)なしで用いることができ，複数形にならない。いわゆる物質名詞，抽象名詞，集合名詞などがこれに含まれる。特に a, an がつくときは［a ~］，また［しばしば a ~］［しばしば ~s］は［or a ~］，［or ~s］などと示した。

［集合的に］としたものには通例 U C をつけない。

固有名詞には U C 記号をつけない。

② C と U の文法上の基準

C と判断する基準として，

(1)数詞がつくかどうか

(2)不定冠詞がつくかどうか

(3)複数形にできるかどうか

ということがあげられる。

C の基準	book	kindness	curd	news
数詞がつく	＋	－	－	－
不定冠詞がつく	＋	＋	－	－
複数形にできる	＋	＋	＋	－

3つの基準をすべて満たすものが完全な C 名詞，それを満たさないものが U 名詞となる。しかし，すべては満たさないが，その一部(２つの基準)を満たす中間段階のものがある。これも一般に不完全ながら C 名詞扱いされている。kindness のグループがそれである。本辞典ではこのグループの語については，意味区分に応じて U と C とを示しているが，こうした中間段階の語で意味区分を明確に示しにくい語やランクの低い語については一括して C U または U C と表示した。C U は C 性の方が，U C は U 性の方が強いことを表している。

◇ U 名詞であっても，その種類を問題にするときに C 扱いになることがある。これを「**chalk** 名 U ([種類] C) チョーク」のように注記した。この場合，チョークの種類を問題にするときは C となり，chalks of different colors (異なった色のチョーク) のように複数形が用いられる。

C 関連する用法の表示

[the ~] [a ~] [~s] [the ~s] [one's ~] などとあるものは常にこの形で用いられることを示す。この場合 U C はつけない。

複数形の語の語義については，必要に応じ，[単数扱い] [複数扱い] [単数・複数扱い] という表示をした。[単数扱い] の語が主語になった場合は単数の主語に呼応する動詞を用い，また単数の代名詞で受ける(複数形で表示のないものは複数扱いである)。

VIII 成句・句動詞

A 成句の掲げ方

① 成句は語義と別に、成句・複合語 ボタンを表示し、このボタンをタップして参照するようにした。

② 配列はアルファベット順(単語ごとでなく，全体を通してのアルファベット順)である。O, O's(時に S など)はアルファベット順に含めないが，one's, oneself, the, a などはアルファベット順に含めた。また ( ) 内の語(省略可能の意)や，[ ] 内の語(直前の語と交替可能の意)は含めない。

(成句と複合語のデータが両方存在する場合は、成句→複合語の順番に表示した)

B 成句に用いた記号

① O は動詞・前置詞の目的語を示す(ただし，目的語ではなくても便宜上O を用いた場合がまれにある)。

one's は成句の主語と同じものが人称代名詞(my, your, her, their など)になって入ることを示す。その他の場合はO's とする。oneself は再帰代名詞(myself, yourself, herself など)が入ることを示す(この辞典の **oneself** の項目の◇ [語法] 参照)。

〈 〉〔 〕( )[ ]の意味は単語の語義の場合(VI-C-①，I，J-①)と同じである。[ ] が成句見出しと訳の両方にあるときは，用例の場合(VI-L-②)と同じように，英語とその訳を対応させて用いるのを原則とした。

② 成句には標準的な強勢を表示した。ただし，文脈による変動や個人差も大きいので，ひとつの目安としての表示である。

③ 重要語に相当する成句には *印をつけた。

C 成句を扱う場所

原則として，その成句に含まれる名詞のところで扱う。名詞を含まない場合は成句中でもっとも重要な語またはもっとも特徴的な語の見出し語のところで扱う。

in the lóng rùn	**run** 名 で扱う。
hít it úp	**hit** 動 で扱う。
còme (báck) to lífe	**life** 名 で扱う。
kéep one's héad	**head** 名 で扱う。
to the lífe	**life** 名 で扱う。

◇成句は，「成句検索」を用いれば直接検索できる。

D 機能表示

①「動詞＋前置詞または副詞辞」からなる句動詞には成句としての機能(品詞に準ずるもの)を次のように表示した。

［自］自動詞＋副詞辞：　目的語をとらない。

［他］他動詞＋副詞辞：　他動詞なので目的語をとる。原則として副詞辞は目的語の前にも後にも置かれる(～ O up / ～ up O のいずれも可)。ただし O が代名詞の場合は通例 ～ O up のみ可。◇まれに副詞辞ではなく前置詞の場合，たとえば ～ O_1 into O_2の形式もここに入れた。

［自$^+$］［～ on O］自動詞＋前置詞：目的語は前置詞の目的語である。他動詞に近づき、しばしば受け身が可能。

② 句動詞以外でも，形や訳語からわかりにくいものは［名］［副］［接］のように機能表示をした。

E 相互参照など

他の成句と同じ意味のときは＝を用いて次のように示した。

(top の項で) **from tóp to tóe** =from HEAD to foot.

[from head to foot と同じ意味であり,それは head (大文字になっている)の項に説明があることを示す]

他の見出し語のもとで扱った場合は → でそれを示した。

発音記号表

【母音】

/iː/	sea, piece	/ə:(r)/*	bird, early
/i/	hit, pick	/əːr | ʌr/	courage, current
/e/	set, red	/ei/	take, eight
/æ/	bat, cap	/ai/	right, try
/æ | ɑː/	laugh, staff	/ɔi/	choice, toy
/ɑː/	father, calm	/au/	out, cow
/ɑ/*	hot, watch	/ou/*	rope, road
/ʌ/	cup, bus	/ɑː(r)/*	star, par
/ɔː/	law, ball	/ɔː(r)/*	door, store
/ɔ(:)/*	long, soft	/iə(r)/*	deer, fear
/u/	book, would	/eə(r)/*	hair, care
/uː/	soup, food	/uə(r)/*	tour, poor
/(j)uː/*	new, pursue	/-iər-/*	serious, cereal
/ə/	collect, sofa	/-eər-/*	parent, vary
/ər/*	paper, sister	/-uər-/*	tourist, curious

【子音】

/p/	pen, cup	/dz/	reads, adds
/b/	boy, job	/tʃ/	chart, catch
/t/	team, sit	/dʒ/	July, bridge
/d/	date, pad	/h/	hot, who
/k/	kick, cut	/m/	man, sum
/g/	gate, leg	/n/	not, run
/f/	fight, puff	/ŋ/	song, singer
/v/	voice, save	/l/	light, tell
/θ/	three, tooth	/r/	red, terrible
/ð/	this, bathe	/j/	yes, opinion
/s/	sun, pass	/w/	well, one
/z/	zoo, noise	/(h)w/*	what, while
/ʃ/	she, cash	/x/	Bach（外国語のみ）
/ʒ/	vision, pleasure	/ç/	Köchel（外国語のみ）
/ts/	cats, roots	◌̥	無声化を示す：umph/m̥m̥m̥/

【発音記号表への注】

1. 米音と英音

/lǽf | lá:f/ のような場合，｜の左側が米国式，右側が英国式の発音である。
《米+》,《英+》は「米国ではこの発音もある」,「英国ではこの発音もある」の意。
*印の音については米音と英音が異なっていて，次のように対応している。

/ɑ/	→ 米 /ɑ/	英 /ɔ/（英音を特に示すときは /ɔ/ を用いた）
/ɔ(:)/	→ 米 /ɔ:/	英 /ɔ/
/(j)u:/	→ 米 /u:/	英 /ju:/
/ə(r)/	→ 米 /ə/	英 /ə/
/ə:(r)/	→ 米 /ə:/	英 /ə:/
/ə:r|ʌr/	→ 米 /ə:/	英 /ʌr/
/ou/	→ 米 /ou/	英 /əu/ (英音を特に示すときは/əu/を用いた)
/ɑ:(r)/	→ 米 /ɑə/	英 /ɑ:/
/ɔ:(r)/	→ 米 /ɔə/	英 /ɔ:/
/iə(r)/	→ 米 /iə/	英 /iə/
/eə(r)/	→ 米 /eə/	英 /eə/
/uə(r)/	→ 米 /uə/	英 /uə/
/-iər-/	→ 米 /-ir-/	英 /-iər-/
/-eər-/	→ 米 /-er-/	英 /-eər-/
/-uər-/	→ 米 /-ur-/	英 /-uər-/
/hw-/	→ /w-,《米+》hw-/	

/ə//ə:/については4.参照。

2. /i/と/i:/,/u/と/u:/

/i/と/i:/,/u/と/u:/の違いは，音の長さの違いではなく，音質の違いである。すなわち，/i//u/は舌の位置が低い，緊張がない，唇の形が緩む，といった特徴があるのに対し，/i://u:/は舌の位置が高く，緊張があり，唇が張って[/u/では丸められて]いる(この点，「おじいさん」と「おじさん」を母音の長さで区別する日本語とは事情が異なる。実際のところ，beat/bí:t/とbid /bíd/の母音の長さはほとんど等しい)。

本辞典では従来からの記号を使って表記をしているが，上記の点を考慮して/i//u/の代りに/I//U/で表記することも多くなってきている。

3. あいまい母音 /ə/

通常「あいまい母音」と呼ばれている /ə/ (記号の名称は「シュワー(schwa)」)は，「そのつづり字本来の母音を弱く発音した音」を表す。/ə/ は時に「日本語のアの弱い音」というように説明されることもあるが，実際にはそれだけでなく，かなり広い範囲の音が含まれる。

例えば，today /tədéi/ の /tə-/ は，「タ」ではなく，/tu-/ の方に寄った音である。

4. /ə(r)/と/ə:(r)/(または/ə:r/)

米音における/ə(r)/と/ə:(r)/(または/ə:r/)は，/ə+r//ə:+r/という2つの音の連続ではなく，実際には，それぞれ/ə//ə:/という1つの母音として発音される(/ə/の記号は「かぎ付きのシュワー(hooked schwa)」と呼ばれる)。母音の/ə//ə:/は,いわば子音の/r/を長めに発音した音(すなわち音節主音的な/r/)であり,これら3つの音の音質は,実質的に同じであると考えてよい。

5. 音節主音的子音の発音表記

主として日本人の発音に多い誤りを防ぐ配慮から，次のような語の終わりにくる「音節主音的子音(syllabic consonant)/l//m//n/の前では通例母音を表示しない。

(1) /pl/ **principal** /prínsəpl/
/kl/ **local** /lóukl/
/sl/ **Russell** /rʌsl/
/bl/ **global** /glóubl/
/fl/ **beautiful** /bjú:təfl/
(ただし,「···1杯分」の -fulは/-fùl/)
/zl/ **drizzle** /drízl/
/tl/ **metal** /métl/
/nl/ **national** /nǽʃənl/
/ml/ **normal** /nɔ́:(r)ml/
その他/dl//gl//vl//ʃl/など。
副詞形では**normally** /nɔ́:(r)məli/のようになる。

(2) /zm/ **prism** /prízm/
/ðm/ **rhythm** /ríðm/

(3) /tn/ **cotton** /kátn/
/pn/ **happen** /hǽpn/
/dn/ **harden** /há:(r)dn/
/zn/ **reason** /rí:zn/
/sn/ **lesson** /lésn/
その他/fn//vn//kn/など。
また，/əl//əm//ən//ər/は，それぞれ音節主音的な/l//m//n//r/として発音されることがあることを示している。

6. 強勢(ストレス)とアクセント

アクセントと強勢(ストレス)ということばはしばしば同じように用いられるが，正しくは，強勢は音の強さ(大きさ)を表す用語であり，音の高さや長さとは関係がないのに対し，アクセントは音の強さ(大きさ)に加えて，音の高さや長さなどの要素を総合したものを指す。本辞典の《アクセント注意》は，内容としては「強勢の位置に注意せよ」という意味である。なお，英語のアクセントは強勢を主とする「強さアクセント」(stress accent)であるのに対し，日本語のアクセントは音の高低による「高さアクセント」(pitch accent)という違いがある。

7. 強勢の位置の変化

強勢(ストレス)は，(1) リズムの都合により，また (2) 2つのものを対照させる場合に，その位置が変化することがある。

(1) 英語では，強弱のリズムを整えるために，第1強勢が連続することを避けようとする傾向がある。例えば，後ろの方に第1強勢のある形容詞(または形容詞的用法の名詞)がすぐ次の名詞を修飾するとき，その形容詞の第1強勢が前に移動して，第2強勢のあった位置に置かれることがある。これを「強勢移動(stress shift)」という。
強勢移動が起こるかどうかは，人により，場合により異なるが，本辞典では，一般に強勢移動がよく起きる語については《◆限定用法では /ˊーー/》のように注記した。
例：Japanese　普通はJàpanése だが，例えば boy を限定的に修飾するときは通例 a Jápanèse bóy となる。分離複合語(≒ ápricot など)でも同様。
New York　単独では Nèw Yórk だが，「ニューヨーク市」のときは Néw Yòrk Cíty となる。

(2) happy or unhappy　(幸福なのか不幸なのか)のように意味を対照させる場合は，unháppy を本来の強勢位置で発音すると意味の区別にとって重要な un- が際だたないので，第1強勢を un- に移動して únhàppy とし，対照を明確にすることがある。これを「対照強勢(contrastive stress)」という。

8. その他，「II 発音」を参照。

専門分野略語表

〔アメフト〕	アメリカンフットボール
〔アングリカン〕	アングリカンチャーチ
〔医〕	医学
〔印〕	印刷
〔映〕	映画
〔英史〕	英国史
〔音〕	音楽
〔音声〕	音声学
〔化〕	化学
〔絵〕	絵画
〔化工〕	化学工業
〔カトリ〕	カトリック
〔機〕	機械(工業)
〔ギ神〕	ギリシア神話
〔魚〕	魚類
〔漁〕	漁業
〔軍〕	軍事
〔経〕	経済(学)
〔建〕	建築(学)
〔言〕	言語学
〔工〕	工業・工学
〔鉱〕	鉱物学
〔古生〕	古生物
〔史〕	歴史(学)
〔歯〕	歯科(学)
〔社会〕	社会学
〔狩〕	狩猟
〔宗〕	宗教(学)
〔商〕	商業・商学
〔植〕	植物(学)
〔織〕	紡織
〔神〕	神学
〔心〕	心理学
〔人類〕	人類学
〔数〕	数学
〔生〕	生物(学)
〔政〕	政治(学)
〔生化〕	生化学
〔聖書〕	聖書(学)
〔精神医〕	精神医学
〔地〕	地学・地質学
〔虫〕	昆虫
〔鳥〕	鳥類
〔哲〕	哲学
〔天〕	天文学
〔電気〕	電気(工学)
〔電子工〕	電子工学
〔動〕	動物(学)
〔土木〕	土木(工学)
〔農〕	農業・農学
〔バスケ〕	バスケットボール
〔美〕	美術・美学
〔美史〕	美術史
〔物〕	物理(学)
〔プロテ〕	プロテスタント
〔米史〕	米国史
〔法〕	法律・法学
〔薬〕	薬学
〔郵〕	郵便
〔林〕	林業・林学
〔倫〕	倫理(学)
〔ロ神〕	ローマ神話
〔論〕	論理学

◇このほかの分野については省略しない形で，または「学」だけを省略して示してある(例：〔教育〕＝ 教育(学))。

■ 和英辞典について

I この辞典のしくみ

A 見出し語とその並べ方

① かな見出し(ひらがな・カタカナ)で，国語辞典式の五十音順に並べた。

② 清音・濁音・半濁音の順。「っ」(促音)，「ゃ」「ゅ」「ょ」(拗音)は，それぞれ「つ」「や」「ゆ」「よ」の次に置いた。

③ かな表記・漢字表記とも同じ見出しが２つ以上あるとき(これは主として対応する英語の品詞によって分けたもの)は，肩に数字をつけ，後ろに〈 〉で区別の手掛りを記した。カタカナの同音語も同様である。

あいする[1][愛する]〈動〉
あいする[2][愛する]〈形〉
ライト[1]〈明り〉
ライト[2]〈野球〉

英語の品詞が見出し語から推測しにくいときにも，〈形〉などで英語の品詞を示した。

助詞・助動詞・接尾辞など独立では用いられない語は，ハイフン(—)をつけて見出しにした。

—に —すぎ —たい —など

B 派生語見出し

① 派生語見出しは，主見出しの後に ◇〜する のように示した。
ただし，派生語の記述が長いときは，独立の見出しとした。

② 記述が短いものなどは，後述の「複合語・慣用表現(¶印)」で扱った。

C 記述の構成要素

本辞典の記述内容は次のような要素からなる。

あたま[頭] **[見出し語]**
③[頭脳][知力，思考力，判断力...] **[意味の区分][類語]**
*head C 頭脳、理性...II... **[英語中見出し]**
*brain U C (略式)[しばしば〜s] 頭脳、知能 II...
**mind U C ...心、精神； U 知力、知性； C U 考える力、頭脳 II

▶ drive O_1 into O_2's head O_1＜事＞をO_2＜人＞の頭にたたき込む/.../.../...
[英語中見出し以外の語を用いた英語用例・成句]
¶頭を悩ます puzzle ...//〜の回転が速い **[複合語・慣用表現]**

小さな項目では，適宜簡便な書き方をした。

D 意味による区分

必要に応じ，見出し語を意味によって大きく区分して，①②… で示した。

あたま[頭] ①[頭部] ②[頭髪] ③[頭脳]

E 類語

主要な見出し語については，日本語の類義語・関連語を，見出し語の直後(意味の区分があるときはその区分の直後)に[　]に入れて掲げた。ここに掲げた語を参考にして他の日本語による表現・言い換えを知ることにより，求める英語表現への多様なアプローチが可能になる。

II 英語中見出し

A 英語中見出し

① 見出し語にほぼ対応する英語があるときは，「英語中見出し」を置き，その発音(わかりにくいもののみ)・文型・語義・用法・用例などが英和辞典と同じ方式で揚げた。
配列は，その見出し語を含む文・句を英語で表現する場合の有用性を考慮して並べた。

② 成句も，見出し語にほぼ対応するものは「英語中見出し」として掲げた。

B 記述の方法

① 記述の方法や記号類の用法などは，すべて『ジーニアス英和辞典』と同じである。その概要をVに掲げた。

② 英語の品詞は，日本語との対応がわかりにくいものについて表示した。
英語中見出しの語義のうち，見出し語と同じものは，まぎらわしくない場合省略した(前項の「あたま」の例では，「頭」という語義を省略)。

③ 英語の句・成句などで，動詞・前置詞の目的語をOで示した。また，目的語でなくても，便宜上，名詞にOを用いた場合がある(→V-I)。

III 英語用例・成句

英語中見出しとは別に，見出し語を含む文・句を英語で表現する場合に役に立つ英語用例(英語中見出し以外の語を用いたもの)・成句を，▶印の下に掲げた。

IV 複合語・慣用表現

① 見出し語を含む複合語・慣用表現・慣用表現を含む文などと，それにあたる英語を，¶印の下に掲げた。

② 英語の単語(または分離複合語，短い句)が対応する場合は，まずそれを英語中見出しと同様に掲げ，必要によって用例を付した。別の英語との区切りは;で区切った。

V 英語中見出しでの記述

A 重要度の表示

英語としての重要度に応じて，次のようにランクを示した。

⁂　Aランク 中学基本語
⁎　Bランク 高校基本語

B 発音

発音のわかりにくい語，間違えやすい語について，もっとも代表的な発音を示した。用いた記号・書式については「発音記号表」(38ページ)参照。

C 由来

［フランス］［スペイン］［日本］など外来語の由来する言語を示す。

D 品詞表示

① 品詞は次のように示した。

名 名詞	動 動詞	前 前置詞
代 代名詞	自 自動詞	接 接続詞
形 形容詞	他 他動詞	間 間投詞
副 副詞	助 助動詞	
接頭 接頭辞	接尾 接尾辞	
連結 連結形	略 略語	

C U 表示のある語は名詞，自他表示のある語は動詞である。

② 成句のうち，go on, get over のように「動詞＋前置詞または副詞辞」からなる「句動詞」には，成句としての機能（品詞に準ずるもの）を次のように表示した。

［自］ 自動詞＋副詞辞 目的語なし

［他］ 他動詞＋副詞辞 他動詞なので目的語をとる。副詞辞は原則として目的語（O）の前にも後にも置かれる（get over O/get O over のいずれも可）。ただし O が代名詞の場合は通例 get O over のみ可。

［自+］ 自動詞＋前置詞（＋目的語） 目的語は前置詞の目的語である。

その他，句動詞以外の成句でも，形や語義からわかりにくいものは［副］［接］のように機能表示をした。

E 語形変化

不規則変化する名詞の語形変化は，原則として，英語中見出しの直後の（ ）内に注記した。

動詞・形容詞・副詞の語形変化については，『ジーニアス英和辞典』を参照。

F 用法指示・文法上の注記

さまざまな用法・文法上の注記を［ ］に入れて示した（ここで，～ は英語中見出しの代用）。以下に主なものを掲げる。

［P~］ 大文字始まり ［p~］小文字始まり

〈名詞〉

［the ~］［a ~］［an ~］ それぞれの冠詞つき

［one's ~］ my, your, her, his, our, their をつける。

［~s］［~es］ 複数形（子音＋y で終わる語については［~ies］と表示）

［単数扱い］［複数扱い］

それぞれ単数名詞・複数名詞に呼応する動詞や代名詞を用いる。

〈形容詞〉

［叙述］ 叙述用法（be, become, remain などの補語となる用法）

［限定］ 限定用法（名詞の直前［時に直後］でその名詞を直接修飾する用法）

［他動詞的に］ 他動詞に由来し，「(…を)…させるような」といった意味で用いる。

〈動詞〉
［be ~ed］ 受身形　［be ~ing］進行形　［命令形で］
〈その他〉
［a ~ of...］［比喩的に］［けなして］［おどけて］など

G C と U

C は数えられる名詞(countable)，U は数えられない名詞(uncountable)を示す。
他の注記によって用法が示されているときは C U をつけない。
U 名詞であっても，その種類を問題にするとき(「何種類かの…」「何色かの…」など)に C 扱いになるものは「chalk U (種類 C)」と注記した。

H S と D

動詞・形容詞には，必要により，S D の別を示した。
S (stative) 人が自分の意志でコントロールできない状態・出来事を表す。
D (dynamic) 人が自分の意志でコントロールできる状態・出来事を表す。

S と D で，原則として，次のような用法の区別がある。

1) 人を主語にした S 動詞・形容詞：通例進行形・命令形を用いない。
2) 人を主語にした D 動詞・形容詞：通例進行形・命令形で用いることができる(形容詞では“...is being...”のような進行形，“Be...”のような命令形)。
3) 無生物主語の S 動詞・形容詞は，永続的な状態を表す場合，進行形を用いない。一時的な状態を表す場合は，しばしば進行形を用いる。命令形は用いない。

I 文型表示

重要な動詞および一部の形容詞については，S(主語), V(動詞), O(目的語)(または O_1, O_2), C(補語), M(前置詞句・副詞など，副詞的修飾語句)を用いて文型を表示した。
動詞の文型は，5文型を拡張した次の7文型を基本とする。

SV	主語＋動詞	第Ⅰ文型A
SVM	主語＋動詞＋副詞的修飾語(句)	第Ⅰ文型B
SVC	主語＋動詞＋補語	第Ⅱ文型
SVO	主語＋動詞＋目的語	第Ⅲ文型A
SVOM	主語＋動詞＋目的語＋副詞的修飾語(句)	第Ⅲ文型B
SVO_1O_2	主語＋動詞＋間接目的語＋直接目的語	第Ⅳ文型
SVOC	主語＋動詞＋目的語＋補語	第Ⅴ文型

ただし，他動詞の[SVO]，自動詞の[SV]は，まぎらわしくない限り表示を省略した。
その他，不定詞・動名詞・that節・前置詞などを伴うときは，必要により，それも含めて示した。
O_1, O_2 は，前置詞の目的語も含め，使用する名詞の順序によって番号をつける(例：SVO_1 to O_2 / SVO_2O_1)。したがって，O_1＝間接目的語，O_2＝直接目的語と固定しているわけではない。なお，便宜上，目的語以外にも O を用いることがある(例：for the sake of O ＝ for O's sake)。

J 選択制限

動詞の主語・目的語・補語，形容詞の被修飾語，前置詞の目的語などにどういう内容の語がくるか(選択制限)を，語義の中に〈 〉で示した。文型表示をした場合は，その中の S, O などと対応している。

hit... 他 ... 〈人・物が〉〈人・物〉にぶつかる
他動詞の[SVO]，自動詞の[SV]は文型表示を省略した。
主語については「〈人・物が〉」のように示す(語義から明らかな場合は省略)。
目的語(O) については，「〈 〉を」「〈 〉に」のように示す(選択制限を示さない場合は「…を」など)。

hand... 他 [SVO_1O_2/SVO_2 to O_1]O_1〈人〉にO_2〈物〉を手渡す

derive... 他 [SVO_1 from O_2]O_2〈源となる物・事〉からO_1〈利益・楽しみ・安心など〉を引き出す
O_1, O_2 があるときは，その対応を明示した。

desire... 他 [SVO/to do]〈物・事〉を[…することを]強く望む
[SVO]の場合「〈物・事〉を強く望む」，[SVO to do]の場合「…することを強く望む」の意となる。

K 連語関係

その語といっしょによく用いられる前置詞(場合により動名詞・不定詞など)を語義の後に〔 〕に入れて示し，それに対応する訳語も〔 〕で示した。

agree... 自 [SVM]〈風土・食物が〉〔…(の)体質に〕合う〔with〕

動詞にしばしば伴う副詞辞 (up, down など) は，語義の後に (up) のように示した。

light... 他 〈光などが〉〈場所・物〉を明るくする，照らす (up)

L スピーチレベル

① 語の使われる地域・文体などを《 》で示す。指示のない語は普通に用いられる一般語である。主なものは次のとおり：
《正式》 堅い書き言葉・話し言葉
《略式》 くだけた書き言葉・話し言葉
《俗》 俗語，非常にくだけた話し言葉
《文》 文語
《男性語》《女性語》《小児語》
《米》《英》《やや古》

②《NS》 男女両性を含めて用いられる男性名詞(-man のつく語など)，ことさらに男女の違いを強調する語などに対して，男性に偏しない両性に使える語を示す(NS＝Non-sexism)。

M 専門語

専門的な語，決まった分野で用いられる語は，分野を〔 〕で示した。略号は「専門分野略語表」(☞42ページ)参照。

VI いろいろな注記・記号

( ) 省略可能な部分，補足的部分

[ ] 直前の語と入れ替え可能(英語とその訳の日本語の両方に[ ]があるときは，両者が対応している)。

《 》 語義・訳語の直接の定義・説明

《◆ 》 関連情報，注記など

➡ …を見よ，参照せよ

↔ 反意語・対になる語

× 文法的に誤った英語，語法上不適切な表現(時として使われる言い方でも，標準的とはいえないもの，外国人学習者としては用いない方が無難なものに×印をつけた場合もある)

＝ 別の言い方，言い換え

[聖][Shak.](用例中) それぞれ聖書，シェイクスピアの作品に由来する句・用法であることを示す。

イントネーションなど：[↘]下降調/ [↗]上昇調/ [↘↗]下降上昇調/ [↘]部分下降調/ ┆ 若干の休止

■ 英英辞典について

Ⅰ 表記早見表

音節の切れ目は中点(•)で示した。
品詞 —動詞、名詞、形容詞、前置詞など— は、略語v. n. adj. prep.などで示した。(→Ⅱ－A 略語)
発音は国際音標文字を用いて示した。(→Ⅸ発音)
つづりが同じであるが品詞が異なる単語は同綴異義語として取り扱い、独立した見出し語を設けた。(→Ⅳ－D同綴異義語)
複数の語義が存在する場合、各々の語義に番号(太字)を付けて表示した。
つづり方が二つある場合、その両方を示した。
語義はできる限り「ロングマン定義語彙2000語」を用い明確で簡潔な言葉で説明した。
「ロングマン定義語彙」に含まれてない単語は大文字で示した。(→Ⅴ－B定義)
「ロングマン·コーパス·ネットワーク」の情報に基づき役に立つ自然な例文を示した。
派生語は見出し語の語義から意味が明確な場合は項目の最後に示した。(→Ⅳ－C派生語)
句動詞はアルファベット順に見出しの動詞の直後に配列した。(→Ⅳ－B句動詞)
複合語は見出し語として示し、アクセントの位置を表示した。(→Ⅸ－Ⅰ複合語)
文法上の説明は[ ]に入れて示した。(→Ⅲ文法記号)
成句、慣用句はその語義を示した。(→Ⅳ－F成句と慣用句)
連語 —共に使われることが多い単語— は例文中で太字表示、あるいは後ろに説明を加えた。(→Ⅴ－D連語)
長い見出し語には「標識(Signpost)」【 】に入れて示し、探している語義を見つけやすくした。(→Ⅴ－E標識)
単語が使われる典型的な文脈、情況あるいは話し手の感情を示したラベルを《 》で表示した。(→Ⅱ－Cラベル)
他の単語や成句、語法の説明が参照できるようにした。(→Ⅴ－F同義語と反意語)
複数形、時制による変化形、比較級、最上級をつくるときに予測のできないつづりをする単語は、品詞の後に太字で示した。

Ⅱ 略語・頻度表示・ラベル

A 略語

adj.	形容詞
adv.	副詞
E.	東
etc.	その他、～など
n.	名詞
N.	北
phr. v.	句動詞
prep.	前置詞
pron.	代名詞
S.	南
sb	だれか(someone)

sth	何か(something)
U.S.	アメリカ合衆国
v.	動詞
W.	西

B 頻度表示

これらの記号では、アメリカ英語の口語S1 S2 S3と文語W1 W2 W3で最も使用頻度の高い3,000語を示した。使用頻度の上位1,000語はS1またはW1と表示し、次の1,000語はS2またはW2と表示した。(→Ⅵ頻度)

C ラベル

1 特定の情況で使われるか、特定の態度を示す単語

《APPROVING》語義には明確に表れていないが､物や人を褒めるために使われる単語。

《DISAPPROVING》語義には明確に表れていないが、嫌悪や不賛成を示すために使われる単語。

《FORMAL》正式な話し言葉や書き言葉にふさわしい単語。通常の会話では使われないのが普通。

《HUMOROUS》通常は冗談ふうに使われる単語。

《INFORMAL》通常の会話で使われる単語または成句であるが、ビジネス・レターや学術文書など、正式な文脈で使うにはふさわしくない。

2 特定の文脈や言語の中で使われる単語

《BIBLICAL》聖書の中で使われる単語。現代の話し手には古風に聞こえる。

《LAW》法廷などで法律家が使う専門用語。

《LITERARY》主として英文学で使われ、現代の話し言葉や書き言葉では使われない単語。

《NONSTANDARD》多くの人が正しくないと考えている単語。

《NOT TECHNICAL》通常の会話で使われるが、正式な文脈では別の専門用語が使われる単語。

《OLD-FASHIONED》20世紀始めに使われたが、今日では古風に聞こえる単語。

《OLD USE》20世紀より前に使われた単語。

《POETIC》主として詩の中で使われる単語。

《SLANG》特定の集団、特に若い人の間で使われるが、だれもが使うものではない単語または成句。

《SPOKEN》(ほとんど)会話だけで使われる単語または成句。

《TECHNICAL》医者、科学者、その他の専門家によって使われる単語。

《TRADEMARK》特定の会社が作った製品の正式名称。

3 注意して使うべき、あるいは全く使うべきではないののしりの言葉

《IMPOLITE》礼儀正しくすることが重要な情況では使うべきではない単語。例えば相手の人をよく知らないような場合。

《TABOO》下品な単語の中でも最悪と考えられている単語。

《VULGAR》通例、性や排泄物、あるいはそれらに関する体の部位に関係した単語。これらの単語を耳にするとしても自分では使わない方が無難である。

使うべきでない侮辱的または不快な単語
《OFFENSIVE》だれかを侮辱するか怒らせるために意識的に使われる単語。
《RACIST》特定の国または人種の出身者について使われる極端に不快な単語。

4 アメリカ英語以外の単語やつづり
《BRITISH》イギリス英語
《CANADIAN》カナダ英語

Ⅲ 文法記号

[C] 可算名詞。数えられる名詞で、複数形があるもの。
[U] 不可算名詞。数えられない名詞で、複数形がないもの。
[I] 自動詞。直接目的語をとらない動詞。
[T] 他動詞。直接目的語をとる動詞。直接目的語は名詞句または節になる。
[I,T] 自動詞または他動詞。動詞が直接目的語をとる場合ととらない場合があることを示す。
[singular] 名詞が単数形のみで使われ、複数形をもたないことを示す。
[plural] 名詞が複数動詞または複数代名詞のみを伴い、単数形をもたないことを示す。
[linking verb] 連結動詞。動詞にその動詞の主語を指す名詞または形容詞の補語が続くことを示す。
[always + adv./prep.] 動詞に必ず副詞または前置詞句が続くことを示す。
[not in progressive] 動詞が進行形では使われないことを示す。つまり、beの後に-ingが付く形にはならない。
[no comparative] 形容詞が比較級や最上級では使われないことを示す。つまり、-erまたは-est、moreまたはmostが付く形にはならない。
[only before noun] 形容詞が名詞の前でしか使えないことを示す。
[not before noun] 形容詞が名詞の前では使えないことを示す。
[only after noun] 形容詞が名詞の直後でしか使えないことを示す。
[sentence adverb] 文副詞。副詞が文全体を修飾することを示す。
[+ adj./adv.] 程度の副詞に形容詞または別の副詞が続くことを示す。
[+ between] [+ about] 単語に特定の前置詞が続くことを示す。
[propose that] 単語にthatで始まる節が続きうることを示す。
[sure (that)] 単語にthatで始まる節が続きうること、あるいはthatが省けることを示す。
[decide who/what/how etc.] 単語にwh-で始まる単語(where、why、whenなど)またはhowが続きうることを示す。
[resolve to do sth] 単語に不定詞が続きうることを示す。
[see sb/sth do sth] 動詞にtoのない不定詞が続きうることを示す。
[see sb doing sth] 動詞に現在分詞が続きうることを示す。
[get lost/trapped/caught etc.] 動詞に過去分詞が続きうることを示す。
[bring sb sth] 動詞に間接目的語と直接目的語が続きうることを示す。

Ⅳ 探している単語を見つける方法

この辞典では、単語はアルファベット順に配列した。

A 複合語

複合語は二つ以上の単語がまとまって固定した形と特殊な意味をもつもので、air pump、air rage などがその例である。大部分は見出し語として示した(ただし、Ⅳ－F節の「成句と慣用句」を参照)。複合語はアルファベット順に配列し、二つの部分を分けるスペースやハイフンは無視した。

air•tight
air time
air-to-air
air traf•fic con•trol•ler
air•waves

B 句動詞

give up や put off のような句動詞は、本動詞の見出しの直後にアルファベット順に配列した。

face [2] v. [T]
face sb ←→ **down**
face off
face up to

C 定義のない派生語

一部の単語は定義の必要がない。接尾辞を追加することによって見出し語から作られるためである。例えば gracefully と gracefullness は graceful から派生したもので、意味は中心の語に接尾辞の意味を加えたものに等しい。

grace•ful / ˈ greIsfəl / adj.
1 moving in a smooth and attractive way, or having a smooth attractive shape
◆a graceful dancer
◆graceful silk flowers
2 polite and exactly right for a situation
◆a graceful acceptance of defeat
– gracefully adv.
– gracefulness n. [U]

この例では、gracefully は「graceful な方法で」ということであり、gracefullness は「graceful であることの特質」ということである。

D 同綴異義語

同綴異義語は、つづりは同じであるが他の要素が違う単語で、辞書では別々の見出し語として記載される。この辞典では、品詞の異なる単語は同綴異義語として扱った。

face [1] / feis / n. [C,U]

1 【 **front of your head** 】 the front part of your head, where your eyes, nose, and mouth are

◆Jodi has such a pretty face.

◆One of the victims had scratches all over his face.

◆Uncle Gene **had a** surprised **look on his face**.

face [2] v. [T]

1 【 **difficult situation** 】 if you face a difficult situation or if it faces you, you must deal with it

◆Weber is facing the biggest challenge of his career.

◆If found guilty, Jones could face up to 20 years in jail.

◆The city council **is faced with** (=is in a situation where they have to deal with) the task of making budget cuts.

同綴異義語の順番は通用の度合いによる。faceは動詞としてよりも名詞としてよく使われるので、名詞の見出し語の方を先に示した。

品詞とつづりが同じで発音が異なる単語は別々の見出し語とした。例えば名詞bow (boʊ)と動詞bow (baʊ)は別々の見出し語とした。

二つの単語のつづりは同じであるが、一方は大文字で始まり語義が完全に異なる場合(例えば形容詞catholicとCatholicなど)は、別々の見出し語とした。

名詞の複数形であるが別の語義をもつ単語は、その名詞の語義の一つとして示した。

blue [2] n.

1 [C,U] the color of the sky on a clear day

◆I especially like the rich blues and reds of the painting.

◆Carolyn's the one dressed in blue.

2 blues [plural] a slow sad style of music that came from the African-American CULTURE in the southern U.S.

◆a blues singer

--see also RHYTHM AND BLUES

3 the blues [plural]《INFORMAL》feelings of sadness

◆A lot of women get the blues after the baby is born.

いくつかの名詞、例えばbelongingsという単語は、複数形でのみ存在する。これらは独立の見出し語を設けた。

E その他の種類の見出し語

略語は見出し語とし、dis-などの接頭辞と-ableなどの接尾辞も見出し語とした。

異なるつづりや形で、一般的に使われている場合は見出し語のところに示した。これらは独立の見出し語としても設け、主要見出し語を参照できるようにした。

aes•thet•ic, esthetic /ɛsˈθɛtɪk, Is- / adj.

1 relating to beauty and the study of beauty

◆The town council will discuss plans for aesthetic improvements at two city parks.

◆People want wood shingles on their houses for purely aesthetic reasons.

es•thet•ic /ɛsˈθɛtɪk / adj.

another spelling of AESTHETIC

– esthetically/-kli/ adv.

単語の不規則変化形は原形のところに示したほか、独立の見出し語としても示して、主要見出し語を参照できるようにした。

have [1] /əv, həv ; strong hæv/ auxiliary verb past tense **had** third person singular present tense **has** negative short forms **haven't, hadn't, hasn't**

had/əd, həd ; strong hæd/ v.

1 the past tense and past participle of HAVE

F 成句と慣用句

一部の単語は特定の成句で使われることが多く、この辞典の重要な特徴はそれらを別の語義として扱っていることである。

a•live / ə ˈ laɪv / adj. [not before noun]

6 be alive with sth to be full of something and seem busy or exciting

◆The street was alive with music.

◆wooded canyons alive with birds

7 be alive and kicking

a) to be very healthy and active

◆At last report, she was still alive and kicking.

b) to continue to exist successfully

◆Despite financial problems, the firm is alive and kicking.

8 be alive to sth to realize that something is happening and that it is important

◆Murphy is alive to the romance of his job.

--see also **skin sb alive** (SKIN [2])

成句と慣用句は、通常は成句内の最初の重要語の後に記載した（theやto、something、beといった単語のところではない）。したがって、skin sb aliveの定義はaliveではなくskinのところにある。上記の見出し語の最後にある参照の注は、skin[2] のskin sb alive の語義を参照ということである。

Ⅴ 語義の理解

A 二つ以上の語義のある単語

単語に二つ以上の語義がある場合には、それぞれの語義に別々の番号を与え、ロングマンの口語および文語コーパスの分析に従って最も頻度の高い語義を最初に示した。

al•low•ance /ə ˈ laʊəns / n. [C]

1 an amount of something that is acceptable or safe

◆The baggage allowance is 75 pounds per person.

◆A glass of orange juice provides the recommended daily allowance of Vitamin C.

2 an amount of money that you are given regularly or for a special reason **a clothing/travel/housing etc. allowance**

◆Joe's salary includes a monthly clothing allowance.

3 a small amount of money that a parent regularly gives to a child

◆Mom gave us kids a weekly allowance if we kept our rooms clean.

この辞典は口語英語と文語英語の大きなコーパス(データベース)の分析に基づいている。ロングマンでは単語や成句が使われる頻度と、それぞれの語義の頻度を分析している。

その単語を含み、別に独自の語義のある成句は、別の語義として示し、頻度順に配列した。

look•out / ˈlʊk-aʊt / n.

1 be on the lookout for sth to continuously watch a place or pay attention in order to find something you want or to be ready for problems or opportunities

◆You've got to be on the lookout for snakes around here.

2 keep a lookout to keep watching carefully for something or someone, especially for danger

◆Soldiers kept a lookout for enemy planes through the night.

3 [C] someone whose duty is to watch carefully for something, especially danger

4 [C] a place for a lookout to watch from

これを見ると、lookoutはbe on the lookout forという成句の中で最もよく使われることが分かる。

B 定義

この辞典にあるすべての定義は、「ロングマン・アメリカ英語定義語彙」の約2,000語の一般的な単語を使って明確で簡潔な言葉で書かれている。

この辞典では、すべての定義がこのリストにある単語を使って書かれている。ある定義がリストにない単語を含む場合には、その単語は大文字で示した。

C 例文

この辞典の大部分の定義には、その単語の使い方を示す例文を付けた。

これらの例文は短い成句のことでもあれば完全な文のことでもある。先頭に◆を示した。

◆clear instructions

◆The test questions weren't very clear.

◆I'll give you until Monday to turn in your essay. Is that clear?

この辞典にあるすべての例文は、「ロングマン・コーパス・ネットワーク」の口語および文語コーパス資料に基づく。例文はコーパスから直接取ったもののほか、コーパスから少し変えて難しい単語を除いたものと、その見出し語向けに特別に書いたものがある。例文は事例ごとに注意深く選択して、単語または成句が使われる典型的な形を示すようにした。

例文にはその単語の文法的用法も示した。文法パターンは[　]に入れて示した。

[be clear about sth]

◆Smith was very clear about the school's policies on the issue.

[be clear about what/when/how etc.]

◆Could you be more clear about how long it will take to do the job?

[be clear on sth]

◆The manual is clear on how to operate the software.

[be clear to sb]

◆It is clear to me that the company will have to make further job cuts.

D 連語

この辞典の重要な目的の一つが、ある単語に関する連語、すなわち共に使われることが多い単語を明確に示すことである。

連語は例文では太字で示し、必要なときは短い定義を( )に入れて添えた。

◆Before asking for a raise, get **a clear idea** (=a good understanding) of what you plan to say.

◆We need to send kids **a crystal-clear** (=very easy to understand) message that drugs are dangerous.

これらの連語は頻度順に、最も重要な連語を最初に示した。

E 知りたい語義を見つける ―標識(Signpost)

語義がたくさんある見出し語には「標識(Signpost)」を付け、探している語義が素早く見つけられるようにした。「標識(Signpost)」は利用者を正しい語義へ導く単語または短い成句である。場合によって同義語であったり、短い定義や、動詞の典型的な主語または目的語であったりする。標識は【 】に入れ太字で語義の前に示し、「ロングマン・アメリカ英語定義語彙」にある単語だけを使って書いてある。

bridge [1] / brɪdʒ / n.

1 【 **over a river/road etc.** 】 [C] a structure built over a river, road etc., that allows people or vehicles to cross from one side to the other

2 【 **connection** 】 [C] something that provides a connection or relationship between two things [**+ between**]

◆His job is to serve as a kind of bridge between students and the college administration.

◆The mayor has been **building bridges** (=making a better relationship) between ordinary citizens and public officials.

3 【 **ship** 】 [C] the raised part of a ship from which the officers control it

4 【 **card game** 】 [U] a card game for four players who play in pairs

5 【 **part of nose** 】 [C usually singular] the upper part of your nose between your eyes

◆He had a small cut on **the bridge of his nose**.

6 【 **pair of glasses** 】 [C usually singular] the part of a pair of glasses that rests on the bridge of your nose

7 【 **musical instrument** 】 [C usually singular] a small piece of wood under the strings of a VIOLIN or GUITAR, used to keep them in position

8 【 **for teeth** 】 [C] a small piece of metal that keeps false teeth in place by attaching them to your real teeth

F 同義語と反意語

時として同義語(定義対象の単語と語義が同じかほとんど同じ単語)を示すことは有用である。これらは定義の後に、次のように大文字で示した。

an•noy / ə ˈ nɔɪ / v. **annoys, annoyed, annoying** [T]
to make someone feel slightly angry and unhappy about something

語義が似ているか関連している単語、あるいは形が似ている単語は、"compare" という注を付けて示した。有用な反意語も示した。

i•mag•i•nar•y / ɪ ˈ mædʒə ˌ nɛri / adj.
not real, but produced from pictures or ideas in your mind
◆Many young children have imaginary playmates.
◆The events described in the book are imaginary.
--compare IMAGINATIVE

ag•ri•cul•ture / ˈ ægrɪ ˌ kʌltʃə / n. [U]
the practice or science of farming
– **agricultural** / ˌ ægrɪ ˈ kʌltʃərəl ◀ / adj.
– **agriculturalist** n. [C]
--compare HORTICULTURE

as•cent /ə ˈ sɛnt, ˈ æsɛnt/ n.
1 [C usually singular] the act of climbing something or moving toward the top of something
◆The final ascent of Kilimanjaro began at 5:00 a.m.
2 [U] the process of becoming more important, powerful, or successful than before
◆Yeltsin's ascent to the presidency of Russia
3 [C usually singular] a path or way up to the top of something, for example a mountain
◆a rugged and steep ascent
–opposite DESCENT

Ⅵ 頻度

この辞典は頻度に基づいて構成した。単語は最も頻度の高い語義を最初に示し、同綴異義語は頻度順に示した。
頻度についての判断は、すべてコーパス資料の分析によって行った。この編集方針は言語に関する重要な情報であり、学生にとっても有効である。

この辞典では、口語英語と文語英語でどんな単語の使用頻度が高いのかも示した。これはロングマンが入手できたすべてのアメリカ英語コーパス資料のコンピュータを使った分析に基づいている。記号の中に数字の1があれば、その単語は口語英語か文語英語で使用頻度の高い方から1,000語に入っている。数字の2は単語がリストの1,001番目から2,000番目までにあることを示し、数字の3は単語がリストの2,001番目から3,000番目までにあることを示す。

S1 W2 単語は口語英語で使用頻度の上位1,000語に入っており、文語英語では1,001番目か

ら2,000番目までにあることを示す。
S3 単語は口語英語では2,001番目から3,000番目までにあるが、文語英語では使用頻度の高い3,000語には入っていないことを示す。

Ⅶ 文法

この辞典では、単語の文法に関して多くの情報を記載した。まず、見出し語が属する品詞―名詞、動詞、形容詞、あるいはその他― を示した。また、単語の変化形に関する情報も示した。過去形、複数形、比較級などで使われたときに、形がどう変化するのかを示した。さらに、その単語の統語法(その単語が別の単語と結合して文を形成するさまざまなパターン)についても十分に説明した。

A 品詞

品詞は次のように示した。

a•brupt / əˈbrʌpt / adj.

1 sudden and unexpected

◆There may be an abrupt change in weather patterns.

an abrupt end/stop/halt etc.

◆His resignation was an abrupt end to an impressive career.

2 seeming rude and unfriendly, especially because you do not waste time in friendly conversation; BRUSQUE

◆"Change it," he says in his abrupt, no-nonsense style.

– abruptly adv.

– abruptness n. [U]

これはabruptが形容詞だということを示す。派生語にも品詞ラベルを付けた。すなわち、abruptlyは副詞、abruptnessは名詞である。

この辞典で使う品詞は次のとおりである。

adj.	形容詞
adv.	副詞
auxiliary verb	助動詞
conjunction	接続詞
determiner	限定詞
interjection	間投詞
modal verb	法助動詞
n.	名詞
number	数詞
phr. v.	句動詞
possesive pron.	所有代名詞
possesive adj.	所有形容詞
prefix	接頭辞
prep.	前置詞
pron.	代名詞
quantifier	数量詞

suffix　　接尾辞
v.　　動詞

B 変化形

変化形とは、単語の形が文中の機能に応じて変化したその形のことである。大部分の単語は規則的な決まりに従って語形が変化する。例えば、大部分の名詞は-sまたは-esを加えて複数形を作り、大部分の動詞は-edを加えて過去形を作る。こうした「規則変化形」は、混乱の可能性がある場合や規則変化形に難しい発音がある場合を除いて、この辞典では原則として示さなかった。

「不規則変化形」は常に示した。次のように品詞の直後に太字で表示した。

cri•sis / ˈkraɪsɪs / n. plural **crises** / -sɪz / [C,U]

eat / it / v. past tense **ate** past participle **eaten**

good ¹ / gʊd / adj. comparative **better** superlative **best**

不規則変化形は独立した見出し語としても示し、主要見出し語を参照できるようにした。

ate / eɪt / v.
the past tense of EAT

次のものについても変化形を示した。

過去形と-ing形に二重文字のある動詞。

hug ¹ / hʌg / v. **hugged, hugging**

-yで終わる動詞。

car•ry ¹ / ˈ kæri / v. **carried, carrying**

-yで終わる形容詞。

dirt•y ¹ / ˈ də t̬i / adj. **dirtier, dirtiest**

C 統語法 ―動詞

動詞の用法に関する基本情報を[　]に入れて示した。

記号 [I]（自動詞）および[T]（他動詞）は、動詞が目的語をとるかとらないかを示す。

hard•en / ˈ hɑrdn / v.

1 [I,T] to become firm or stiff, or to make something firm or stiff
◆The clay needs to harden before it can be painted.
◆Harden the chocolates by putting them in the fridge.

2 [I,T] to become or sound more strict and determined and less sympathetic, or to make someone become this way
◆Opposition to the peace talks has hardened since the attack.
◆The death of a parent can harden young people, making them bitter.

3 harden your heart to make yourself not feel pity or sympathy for someone
--opposite SOFTEN

記号 [linking verb] は、動詞が文の主語を、その主語を説明するかその主語と同じである単語または成句に結び付けるという意味である。

3 【 **seem** 】 [linking verb] to seem to be something, especially by having a particular appearance

◆Do these jeans make me look fat?

◆When I saw him last week he didn't look very good.

◆She **looks** just **like** someone I used to work with.

look as if/though

◆This car looks as if it could cost more.

◆With all the commotion **it looked as if** the circus had come to town.

be [2] v.

1 [linking verb] used to show that someone or something is the same as the subject

◆Hi, it's me.

◆These are Len's dogs.

◆Christie is my girlfriend.

◆The truth is, I don't have enough money.

[ ]には動詞の使い方に関する制限が入ることもある。例えば [not in progressive] などである。

pre•fer / prI ˈ fɚ / v. **preferred, preferring** [T not in progressive]

1 to like someone or something more than someone or something else

[I always + adv./prep.]:

am•ble / ˈ æmbəl / v. [I always + adv./prep.]

to walk in a slow relaxed way [**+ along/across etc.**]

◆Joe ambled over to say hello.

– **amble** n. [singular]

この記号が示すのは、ただ "he ambled" と言うことはできず、必ず "along" や "toward me" などを付け加える必要があるということを示す。

[usually in passive]:

carpet [2] v. [T]

1 [usually passive] to cover a floor with carpet

◆The hall was carpeted in a depressing shade of green.

2 be carpeted with grass/flowers etc.《LITERARY》to be covered with a thick layer of grass etc.

[not in passive]:

concern [2] v. [T]

1 [not in passive] if an activity, situation, rule etc. concerns you, it affects you or involves you

◆The tax changes will concern large corporations more than small businesses.

2 to make someone feel worried or upset

◆The potential for abuse of these products concerns me a great deal.

◆We are deeply concerned by America's neglect of its youth.

3 [not in passive] if a story, book, report etc. concerns someone or something, it is about them

◆Many of Woody Allen's movies concern life in New York.

単語が使われるときに必ず当てはまる場合は、この文法情報は見出し語の後ろに示した。その単語の特定の語義に当てはまる場合は、その語義番号の後ろに示した。

動詞の用法に関するその他の情報は例文の形で示した。典型的な構文を[　]に入れて示してから、具体的な例文を挙げた。

ad•e•quate / ˈædəkwɪt / adj.

1 an adequate amount is enough for a particular purpose

◆Hardin's campaign did not have adequate funds to broadcast any ads on television.

[+ **for**]

◆The earlier electric car's range of 50 miles was not adequate for suburban driving.

2 good enough in quality for a particular purpose or activity

◆Most people eat an adequate diet.

[**adequate to do sth**]

◆The safety procedures are adequate to protect public health.

[+ **for**]

◆Parents should ask whether the school's facilities are adequate for their children's needs.

これらの例文は頻度順に、使用頻度の高い構文から先に示した。

D 句動詞

句動詞について重要なのは、前置詞が目的語の前後どちらにも置けるのかどうか、あるいはどちらかの位置に限定されるのかどうかを示すことである。この辞典ではそれを両矢印↔で示した。

look up phr. v.

1 [T **look** sth ↔ **up**] to try to find information in a book, on a computer etc.

◆If you don't know the word, look it up in the dictionary.

look after sb/sth phr. v. [T]

1 to take care of someone by helping them, giving them what they need, or keeping them safe

◆Will you look after the cat while we're gone?

最初の見出し語にある矢印は、句動詞が分離できることを示す。つまり、"look the word up" とも "look up the word" とも言えるということである。忘れてならないのは、代名詞は分離可能句動詞の二つの部分の間には置けるが、前置詞や副詞の後ろには置けないということである。例えば、"look it up" とは言えても、"look up it" とは言えない。

2番目の見出し語を見ると、”look” と ”after” の間にはどんな単語も置けないことが分かる。

E 統語法 —名詞

[　]に入れた文法情報は、名詞または名詞の特定の語義が、数えられる（a pen, three pens）か数えられない（honor, daylight）かを示す。

hab•i•ta•tion /ˌhæbəˈteɪʃən/ n.《FORMAL》

1 [U] the act of living in a place

◆What are the chances of achieving permanent habitation in space?

◆Many of the housing projects are **unfit for human habitation** (=not safe or healthy for people to live in) .

2 [C]《LITERARY》a house or place to live in

as•sault[1] /əˈsɔlt/ n. [C,U]

1 the crime of physically attacking someone

◆She served three years in prison for assault.

◆an increase in **sexual assaults**

2 a military attack to take control of a place controlled by the enemy

◆The Combined Fleet made plans for an assault on Midway Island.

名詞または名詞の特定の語義が常に単数形であるか常に複数形である場合には、このことも[　]に入れて示した。

af•ter•math /ˈæftəˌmæθ/ n. [singular]

the period of time after something bad such as a war, storm, or accident has happened, when people are still dealing with the results

◆Several people resigned **in the aftermath** of the scandal.

high heels /ˌ.ˈ./ n. [plural]

women’s shoes with high heels

– high-heeled adj.

名詞に一つまたは複数の前置詞が続くのが一般的である場合には、このことを[　]に入れて示してから、具体的な例文を挙げた。名詞に続くのが一般的な構文も、[　]に入れて例文の前に示した。

hope[2] n.

2 【 **sth you hope for** 】[C] something that you hope will happen

◆Your donation can fulfill the hopes and dreams of a child this Christmas.

[**+ of**]

◆Grant was forced to abandon the hope of re-election.

[**hopes of doing sth**]

◆I moved to the city with hopes of finding a job.

◆Tina had **high hopes** (=hopes that something will be successful) for her team at the beginning of the season.

◆The search for survivors continues, but **hopes are fading** (=people are losing hope) fast.

F 統語法 ―形容詞と副詞

形容詞または副詞の用法に関する情報は[　]に入れて示した。次のものがある。

[only before noun]

ac•tu•al / ˈ æk(t)ʃuəl, -ʃəl / adj. [only before noun]

1 real, especially as compared with what is believed, expected or intended

◆It's a true story, based on actual events.

◆The party took place three days before Daniel's actual birthday.

[only after noun]

ga•lore / gə ˈ lɔr/ adj. [only after noun]

in large amounts or numbers

◆At the flea market, there were quilts, furniture, and books galore.

[not before noun]

ad•vis•a•ble / əd ˈ vaIzəbəl/ adj. [not before noun]《FORMAL》

something that is advisable should be done in order to avoid problems or risks

◆For heavy smokers, regular medical checks are advisable.

◆**It is advisable to** disconnect the computer before you open it up.

– advisability / əd ˈ vaIzə ˈ bIlətɨi / n. [U]

[no comparative]

ef•fec•tive / ɪ ˈ fɛktIv / adj.

1 producing the result that was wanted or intended

◆The less expensive drugs were just as effective in treating arthritis.

--opposite INEFFECTIVE

2 [no comparative] if a law, agreement, or system becomes effective, it officially starts

◆His resignation is effective April 8.

3 done with skill, or having a skillful way of doing things

◆The effective use of color can make a small room look much bigger.

4 [no comparative; only before noun] real, rather than what is officially intended or generally believed

◆Rapid advancements in technology have reduced the effective lifespans of computers.

– effectiveness n. [U]

文法情報 [no comparative] の意味は、その形容詞には比較級も最上級もないことを示す。

[+adj./adv.]

in•creas•ing•ly / ɪn ˈ krisɪŋli / adv.
more and more all the time [+ adj./adv.]
◆The rebel group's actions have become increasingly violent.
[sentence adverb]
◆Increasingly, humans and animals are in competition for the same land.

[sentence adverb]

hap•pi•ly / ˈ hæpəli / adv.
1 in a happy way
◆The puppy wagged its tail happily.
◆a happily married couple
2 [sentence adverb] fortunately
◆Happily, Bruce's injuries were not serious.
3 very willingly
◆I'd happily go pick up the kids for you.

文法情報 [sentence adverb] は、この意味ではhappilyは文全体を修飾するために使われているということを示す。

形容詞に続く前置詞または構文は、[　]に入れて例文の前に示した。

hope•ful [1] / ˈ hoʊpfəl / adj.
1 believing that what you hope for is likely to happen [**+ that**]
◆We remain hopeful that her health will continue to improve.
[**+ about**]
◆Lakeisha is hopeful about the future.

G ごくまれな単語

学生にとって不要と思われる、ごくまれな単語は、短く扱い、例文も挙げず、基本的な文法情報しか示さなかった。

Ⅷ 使用域と語法に関する情報

A 使用域の表示

単語および語義によっては、どのような情況または文書で使われる可能性が高いかに関する情報を示した。警告ラベルを付けて、単語の使用に関して注意すべきときや、使わない方がいいときを示した。(項目) Ⅱ－C 節に全ラベルのリストを載せ、説明を添えた。

この種類の情報は、次のように見出し語の後ろまたは語義番号の後ろに《　》に入れ大文字で示した。

ar•bo•re•al / ɑr ˈ bɔriəl / adj.《TECHNICAL OR LITERARY》
relating to trees, or living in trees

ab•ne•ga•tion / ˌ æbnI ˈ geIʃən / n. [U]
《FORMAL》the act of not allowing yourself to have or do something that you want

air kiss / ˈ . . / n. [C]《HUMOROUS》
an act of greeting someone with a kiss near the side of their face, but without touching them, often done by famous people at parties

all-night•er / ˌ . ˈ .. / n. [C]
《INFORMAL》an occasion when you spend the whole night studying or doing written work in college

B 口語の単語と成句

SPOKENというラベルは、書き言葉よりも話し言葉で使われるのが一般的な成句を示す。

【SPOKEN PHRASES】
10 that's life/men/politics etc. used to say that something is typical of a particular situation, group of people etc.
◆I guess I made a mistake, but hey, that's life.
【END OF SPOKEN PHRASES】

ロングマン・コーパスには文語だけでなく口語の資料もあり、この種類の情報は大いに力を入れて供給することができた。口語語義の多い単語、例えばmeanなどは、特別に「口語熟語(spoken phrases)」の欄を【SPOKEN PHRASES】で示した。

C 語法ノート

この辞典には英語語法の詳しいポイントに関する情報を記載した。それぞれの注釈は、関連主要語の見出し語の後ろに記した。注釈の中で扱ったほかの単語は、独立の見出し語から参照できるようにした。

Ⅸ 発音

発音は各単語の後ろに国際音標文字で記し、コンマに続けてその他の可能な発音を示した。発音の一部だけが異なる場合にはその部分を記し、同じ部分はハイフンで示した。別の単語からの規則的な派生語は、主要語の後ろに定義なしで示したが、その大部分は主要語に接尾辞を付け加えただけの形で発音される。こうした場合は発音を示さなかった。そのほかの場合は派生語の発音を示した。

A アメリカ英語

この辞典では、最も一般的なアメリカ英語の話し手が使う発音を示した。例えば、アメリカ人の中にはdataの最初の母音を/ eɪ /と言う人が多いが、/æ/と言う人も多い。そこでdataは/ ˈ deɪtə, ˈ dæṭə /のように示した。これはつまり、どちらの発音も可能で、教育のある話し手が普通に使っているということである。しかし、すべてのアメリカ英語方言とすべての可能な発音を示してはいない。例えば、newsは/ nuz /としか示さなかった。

アメリカ人の中にはこの単語を/ nyuz /と発音する人がわずかながらいるとしてもである。母音/ ɔ /と/ ɑ /はどちらも示したが、/ ɔ /の音は使わない人が多い。その人たちは/ ɔ /の代わりに/ ɑ /と発音するため、caughtとcotはどちらも/ kɑt /と発音される。

B ハイフンの使用

単語に二つ以上の発音を示した場合には、通常は最初の発音と異なる発音の部分だけを示し、同じ部分はハイフンに置き換えた：economics / ˌ ɛkə ˈ nɑmIks, ˈ i- /。ハイフンは、音節の区切りが明確でないような場合に区切りを示すためにも用いた：boyish / ˈ bɔI-Iʃ /、drawing / ˈ drɔ-Iŋ /、clockwise / ˈ lɑk-waIz /。

C 発音記号

この辞典で使用する発音記号は、国際音標文字(IPA)の発音を基礎としているが、少し変更点がある。記号/ y /はIPAで使われる/ j /よりも英語のつづり字に近く、you / yu /の最初の音に使用した。その他の変更については「アメリカ英語の音」の項で説明する。

D 外国語

外国語については英語の発音を示した。話し手によっては元の言語の発音に近い発音を使うこともある。

E 略語

大部分の略語については発音を示さなかった。これは略語が話し言葉ではない(「書き言葉の略語」と定義される)か、文字の名称を言うことによって発音されるためである。後者の場合、第1強勢が最後の文字に、第2強勢が最初の文字に来る：VCR / ˌ vi si ˈ ɑr/。略語が普通の単語のように話される場合には発音を示した：RAM /ræm/。

F 主要語の変化形である単語

主要語と品詞の異なる変化形が、その語の見出し語の最後に来ることがある。その関連語が主要語に語尾を付け加えることによって発音される場合には、発音を別に示さなかった。語尾を付け加えることによって主要語の発音が変化する場合には、関連語の発音を示した。例：impossible / Im ˈ pɑsəbəl /、impossibility / Im ˌ pɑsə ˈ bIlətI /。
こうした見出し語では示さなかった発音の変化も幾つかある。なぜなら次のような規則的パターンがあるからである。(1) -lyまたは-erという語尾が/ -bəl /、/ -kəl /、/ -pəl /、/ -gəl /、または/ -dəl /で終わる主要語に付くときには、通常は/ ə /が落ちる。例えばaudibleは/ ˈ ɔdəbəl/であるが、これに-lyが付くとaudibly / ˈ ɔdəbli/となる。この違いは示さなかった。(2) -lyまたは-ityが-y / i /で終わる語に付くときには、/ i /が/ ə /となる。例えばangry / ˈ æŋgri /はangrily / ˈ æŋgrəli /となる。これも示さなかった。

G 強勢

二つ以上の音節のある英単語では、少なくとも一つの音節が他の音節よりも強く発音される。最も強く発音される音節の前に記号/ ˈ /を付けた。ここに第1強勢があるという：person / ˈ pəsən /、percent / pə ˈ sɛnt /。単語によっては、別の音節に第1強勢ほど強くな

い強勢のあるものもある。これを第2強勢といい、そのような音節の前には記号/ˌ/を付けた：personality /ˌpəsəˈnælətɨi/、personify /pəˈsɑnəˌfaɪ/。第2強勢は、通常は2音節語の2番目の音節には示さなかった。ただし、starlet /ˈstɑrlɪt/に対するstarlit /ˈstɑrˌlɪt/のように、2番目の音節を短縮してはならないことを示す必要がある場合は別とした。

H 強勢のない母音

/ə/および/ɪ/ アメリカ英語では強勢のない音節の多くが、ごく短い不明確な母音とともに発音される。この母音は/ə/または/ɪ/のように示したが、通常の連続した話し言葉では両者の間にほとんど違いはない。例えば単語affect /əˈfɛkt/とeffect /ɪˈfɛkt/は、普通は同じに聞こえる。単語rabbitは/ˈræbɪt/のように示したが、/ˈræbət/と発音されることもある。

/ə/および/ʌ/ これらの音はごく似通っている。記号/ə/は強勢のない音節に使い、少し長い/ʌ/は第1強勢と第2強勢のある音節に使用した。話す速さが少し速くなると、第2強勢のある音節は強勢がなくなるため、/ʌ/が/ə/と発音されることがある。例えばdifficult /ˈdɪfɪˌkʌlt/およびcoconut /ˈkoʊkəˌnʌt/は、場合によって/ˈdɪfɪkəlt/および/ˈkoʊkənət/のように発音される。発音は/ʌ/の方だけを示した。

I スペースまたはハイフンのある複合語

多くの複合語は各部の間にスペースまたはハイフンを入れて書かれる。複合語のすべての部分がこの辞典の中に別々の主要語として記載されているときは、その複合語全体の発音は示さず、強勢パターンだけを記した。各音節は点/./で示し、強勢のある音節を表す点の前に強勢記号を付けた。例：bus stop /ˈ./、town hall /ˌ.ˈ./。

複合語が語尾つきの主要語を含むことがある。その主要語がこの辞典にあり、語尾が一般的なものである場合は、強勢パターンだけを示した。例えば、washing machineは/ˈ..ˌ./ とした。この辞典ではwashingは主要語ではないがwashは主要語であり、-ingは一般的な語尾なので、強勢パターンだけを示した。しかしいずれかの部分が主要語でない場合は、全体の発音を記した：helter-skelter /ˌhɛltəˌskɛltə/。

J 強勢移動

いくつかの複合語は、一部の名詞の前で使われたときに強勢移動が起こることがある。例えば複合語plate glassは、それだけで使うかThe window was made of plate glassのような文の中で使ったときには、/ˌ.ˈ./というパターンになる。しかし、成句plate glass windowは、/ˌ..ˈ../というパターンになるのが普通である。/◀/という印はこのことを示す。例：plate glass /ˌ.ˈ.◀/。強勢移動は一部の単語でも起こることがある：articicial /ˌɑrɬəˈfɪʃəl◀/、independent /ˌɪndɪˈpɛndənt◀/。

K 音節子音

/n/および/l/の音は、音節を表す文字になりうる。すなわち、特に単語の末尾にある(そして特定の子音、特に/t/および/d/に続く)場合は、それ自体で音節を作ることができる。例えばsudden /ˈsʌdn/では、/n/は音節を表す文字である。/d/と/n/の間には母音がないので、母音は示さなかった。単語の真ん中では、/n/または/l/の後ろのハイフンまたは強勢記号によって、これが音節を表す文字であることを示した。botanist /

ˈ bɑtˈ nɪst /およびcatalog / ˈ kæʧlˌ ɔg /は3音節の単語である。
rの音は子音/ r /にも母音/ ɚ /にもなりうる。/ ɚ /に強勢のない母音が続くときには、二つの母音、すなわち/ ɚ /とそれに続く母音の連続として発音されることもあれば、/ ə /のように発音されて/ r /で始まる音節がそれに続くこともある。例えば、単語coloringは/ ˈ kʌlərɪŋ /ではなく/ ˈ kʌləɪŋ /と発音されることがある。発音は/ ˈ kʌlərɪŋ /だけを示した。

L 発音表

i	beat, feed
I	bit, did
eI	date, paid
ɛ	bet, bed
æ	bat, bad
ɑ	box, odd, father
ɔ	bought, dog
oʊ	boat, road
ʊ	book, good
u	boot, food, student
ʌ	but, mud, mother
ə	banana, among
ɚ	shirt, murder
aI	bite, cry, buy, eye
aʊ	about, how
ɔI	voice, boy
Ir	beer
ɛr	bare
ɑr	bar
ɔr	door
ʊr	tour
p	pack, happy
b	back, rubber
t	tie
d	die
k	came, key, quick
g	game, guest
tʃ	church, nature, watch
dʒ	judge, general, major
f	fan, photograph
v	van
θ	thing, breath
ð	then, breathe
s	sip, city, psychology

z zip, please, does
ʃ ship, machine, station, special, discussion
ʒ measure, vision
h hot, who
m men, some
n sun, know, pneumonia
ŋ sung, ringing
w wet, white
l light, long
r right, wrong
y yes, use, music
ɾ butter, bottle
tˀ button

/(t)/ 省略可能な/t/を( )に入れて示した
/(d)/ 省略可能な/d/を( )に入れて示した
/ˈ/ 第1強勢を示す
/ˌ/ 第2強勢を示す
/◀/ 強勢移動を示す

M アメリカ英語の音

/ ɾ / tapやsatの中の/ t /は無声音である。しかしアメリカ人の中には、latterやparty、littleのような単語の中のtについて、素早い/d/のような有声音を使う人が多い。この辞典では/ ɾ /と記した。こうした単語の中のtは、ladderやhardy、middleの中のdのように聞こえる。通常この音が生じるのは、母音の間(特に強勢のない母音の前)やrと母音の間、あるいは音節を表す子音/ l /の前である。

/ tˀ / この記号が意味するのは、多くの話し手が/ t /の代わりに、あるいは/ t /とともに声門閉鎖音を発音するということである。声門閉鎖音とは、uh ohという表現の真ん中の音である。例えば、単語button /ˈ bʌtˀn /およびfootball /ˌ fʊtˀbɔl /に見られるtは、単語ton /tʌn/のtと同じには聞こえず、短時間の沈黙のように聞こえる。声門閉鎖音が生じるのは、通常は音節を表す子音/ n /の前、あるいは次音節の頭にある子音の前である。

/ t /および/ d / これらの記号は、この子音を発音しても省いてもよいことを意味する。例えば、restless /ˈ rɛslIs /の中のtやgrandfather /ˈ grændˌ fɑðə /の中のdは、通常の連続した話し言葉では省かれるのが普通である。ただ、ゆっくりとした慎重な話し言葉では、こうした単語の中のtおよびdを発音する方が正しいとは考えられている。

/ nʃ/ / nʃ/の連続を/ ntʃ/と発音する人も多い。例えば、attention /əˈ tɛnʃən/、conscious /ˈ kɑnʃəs/は/əˈ tɛntʃən/、/ˈ kɑntʃəs/とも発音される。発音は/ nʃ/の方だけを示した。

■ 英語類語辞典について

記述の構成要素

本辞典の記述内容は次のような要素からなる。

head	**[見出し語]**
あたま[頭][頭部]	**[意味の区分]**
◆head	**[類語]**
◆top	
あたま[頭][頭脳]	**[意味の区分]**
◆head	**[類語]**
◆brain	
◆mind	
⋮	

類語データの英単語を詳しく調べたいときは、単語をドラッグで選択後、検索をタップしてください。英和辞典、英英辞典、類語辞典とその検索モード(見出し語、成句、例文)を選択するダイアログが表示されますので、検索を行う辞典を選択してください。

MEMO

CASIO

カシオ計算機株式会社

〒151-8543　東京都渋谷区本町1-6-2

PN411821-001　MO0209-A　Printed in Japan

再生紙を使用しています。